寛政録

三

昭和五年三月中院越筆

特別
14
1919
420

176685

寛政録 三

昭和五年三月中浣起筆

○倣し故筆を換し木印一顆を獲たり
これ曲亭馬琴の用印往年馬琴の
著書日の長説今を距ること
遠からざる也外に花坤一小扇の模
印あるこれ、北木印蔵也記に用
の日下蒙業不況能率の増進
大丸愛を感ず余が今年陰日

人生字宙間
志願者何如
系行第五路
即讀為書書

38- 9206

社内に標語を掲る職工の提出せらるるもあり、乃ち印刷に附し、工場に掲ぐ

真面目元氣と笑顔で働け
合理的かくの如く、圓も方も
無駄は嫌ひ面白く吟ずる白蟻
お互ひ氣をつけまうす紙一枚に
雑魚多し雑魚は雑魚軍城臣
顔の工夫きよく全員ニコ〳〵
仕事はキチンとキマリよく

○御四月甲日の交稼を終わり、余等の顔面

標原製

の標語を以て、余等の職場十数則を掲示して巻る

一 丈夫自有衝天氣、不向如来行處行
一 近来倶得安心法、黄壁松風枕上聲
一 十方無處覓大地、無寸土
一 地獄與天堂、總是閑家具
一 心と與形とを不如其異
一 大海若如是、百川悉倒流
一 知恼非恼、則恼亦淨、以淨為淨、則淨亦恼
一 宇宙不會限隔人人自限隔宇宙
一 但教方寸無諸惡、狼虎一夢不立身

一 名納読禄、丸教經仲堂、便臧三合禄理
一 浮世斷り客の夢中樹、夢、世事如夢風意風
一 孔丘盜跖 俱一塵埃
一 苦悩世上、長氣須温、嗜慾胸中、肝腸冰冷

○ 散策中 二三の図書を獲たり、中に孫子の天海傳正の龍蛇の手沢の千字文とありて、北書雲世南の字を集めたる刻本なれ共、横線を引き字の間隔刻也、巻尾に同じく集字の洪武己酉夏金陵王氏勤有堂新刊とあり、

洪武は明の太祖の年號なれ共南北朝の時と

標原製

當る、五代の五山版を孫とするべくんばこれを齊しく孫とすべし、況や天海傳正の手澤を於ては、巻首千字文の字の下に、黒内を捺し、比丘の例の「天海藏」の印記あり、新帖と牡丹漢文を混ぜもせん、黙斎、兼三冊、一冊面白藤面の筆に係る、傳六十一冊とす、

外に古写本二部を始め、一冊竹取物語三冊、
ものの子紙に認めあり、別蝶繼也揮毫もあり
太宗良伝うたる、淡き彩色を施さる、墨蹟
の淡き味ともいふべし、黒漆塗りの茶
附属一書名に無うて蔚あり、貴族の嫁具

中ハ多ク之ニ類シ、年代ハ判シ難キモノ多シ。
ハ天禄以前ノモノト推セラル。
他ノ一ハ小倉ノ百首ニ用ヰタル用紙ハ島ノ子ニテ各紙サマ〳〵ノ色ニ深メ每紙ニ金泥并ニ顔料ヲ用ヘテ描キ出ダル文様アリ、表紙ハ蜀紅錦ヲ用ヘテ特ニ漬シ、表紙ノ表ノ裂ヲハ詩書ヲ織出シ極メテ珍ラシキ織物ナリ、其ノ紅色褪メタルモ蜀紅ナリ、其紙ニモ多ク歌仙ノ図ヲ畫ク、古ヘ宮家用ヰラレタル趣味ヲ伝ヘタルモノ必ラズ多カルベシ、此ノ人ノ如キ多クノ出来ヲ望ムベキカ。

復興帝都の公園と街路樹

帝國風景協會理事
林學博士 田村剛

焦土化して緑地となさんとする帝都復興の造園事業は著々進捗して、こゝに首都の面目を一新した感がある。都市造園の領域は廣汎であるが、その主要なるものは、大小公園、廣場、街路樹等であつて、その個所、面積は震災前に比べるとかなり増加して數量的にも十二分に復興したが、更に一面には、造園の種類とその分布とに關して科學的設計を進めてゐる。

公園面積は未だし
但し分布は理想的

公園の面積についていへば、震災前七三八、二四二坪であつて、人口一人當りの公園面積が〇、三七坪であつたものが、復興の今日においては、八四四、一〇八坪、即ち人口一人當り公園面積は〇、四二坪に増加した。然し都市計畫の理想からすれば、一人當り一坪以上三四坪位はほしいのであるから、この數字で決して滿足だとはいはれない。歐米大都市に比べるとなほ一奮發しなければならぬ譬である。

けれども復興公園の種類について見ると、隅田、錦糸、隅田の三大公園と一千坪級の小公園五十二を加へ焼失小學校の跡を數に對して、夫々小公園を付設したのである。從つて下町あたりでは四、五町も歩めば、小公園を利用し得るのであつて、その分布は理想に近いものである。

帝都の大中心となる大廣場がほしい

都市造園のうちに數へられる廣場や樹台地等にも、新裝を凝らしたものが出現してゐる。九段上、雉子橋、柳原廣場等と國々施工せられ、廣場二十、樹台地百四、その面積合計二萬五百坪位の緑地が產れたわけであつて、これは震災前には見られなかつたものである。

かうした公園や廣場が殷ひを競うて出現したが、然しなほ大帝國の帝都に是非共望ましいものは、四里のコンコルド廣場ほどのものでないにしても、大東京を象徴するほどの大中心たる大廣場であるほどの大中心たる大廣場である。吾人は復興計畫に、かうした大廣場とそれから放射する路とが實現しなかつたを思ふ。そして今後の宮城前の大廣場を籠絡し、一帶に對して、大なる次第である。次に個々の他に對する感想を述べ、ひたい。

米國に出しても恥しくない濱

復興造園は、確に驚くに比べて、一段と進歩してゐる。日本の公園は外地においてはじめて、採用したが、復興造園化してゐる。どこやらたりで出會しさうなもられる。アメリカの公カゴ型の公園が、世界せられてゐる以上、新米國化した所で、大しないやうであるが、中の浮くやうなものがといつて、隅田公園のに、日本庭園の手法をして、それを大陸的な間にはさんだのでは、である。吾人はむしろ

我國無產階級解放運動の先驅たる著者三十年の闘爭記錄……
北九州の工場地帶と筑豐炭田とを中心とする動の血潮と九州無產運
動の歴史を必ず必ず讀まれたい本の

復興帝都の公園と街路樹

帝國風景院理事
林學博士　田村剛

焦土を化して綠地となさんとする帝都復興の造園事業は著々進捗して、こゝに首都の面目を一新した感がある。都市造園の領域は廣汎であるが、その主要なるものは、大小公園、廣場、街路樹等であつて、その個所、面積は震災前に比べるとかなり增加して數量的にも十二分に復興したが、更に一面には、造園の種類とその分布とに關して飛躍的發展を遂げてゐる。

公園面積は未だし　但し分布は理想的

公園の面積についていへば、震災前七三八、二四二坪であつて、人口一人當りの公園面積が〇、三七坪であつたものが、復興の今日においては、八四四、一〇八坪、即ち人口一人當り公園面積は〇、四二坪に增加した。然し都市計畫の理想からすれば、一人當り一坪以上三四坪位はほしいのであるから、この數字で決して滿足だとはいはれない。歐米大都市に比べるとなほ一奮發しなければならぬ筈である。

けれども復興公園の種類について見ると、濱町、錦糸、隅田の三大公園と一千坪級の小公園五十二を加へ燒失小學校の約半數に對して、夫々小公園を付設したのである。從つて下町あたりでは四、五町も歩めば、小公園を利用し得るものであつて、その分布は理想に近いものである。

帝都の大中心となる大廣場がほしい

都市造園のうちに數へられる廣場や橋台地等にも、新裝を凝らしたものが出現してゐる。九段上、雉子橋、柳廣場等と續々施工せられ、廣場二十、橋台地百四、その面積合計二萬五百坪位の綠地が產れたわけであつて、これは震災前には見られなかつたものである。

かうした公園や廣場が裝ひを顯うて出現したが、然しなほ大帝國の帝都に是非共望ましいものは、巴里のコンコルド廣場ほどのものでないにしても、大東京を象徵するほどの大中心たる大廣場である。吾人は復興計畫に、かうした大廣場とそれから放射する並木大路とが實現しなかつたことを淋しく思ふ。そして今後の施設として、宮城前の大廣場を議院建築に結ぶ一帶に對して、大なる期待をもつ次第である。次に個々の公園その他に對する感想を述べさせてもらひたい。

米國に出しても恥しくない濱町公園

復興造園は、確に震災前の造園に比べて、一段と進歩の跡を見せてゐる。日本の公園は、明治神宮外苑においてはじめて、純洋式を採用したが、復興造園は一層洋風化してゐる。どこやらアメリカあたりで出會しさうなものも見うけられる。アメリカの公園、殊にシカゴ型の公園が、世界的に典型とせられてゐる以上、帝都のそれが米國化した所で、大して不思議もないやうであるが、中には少し鹵の浮くやうなものがある。それかといつて、隅田公園の一部のやうに、日本庭園の手法を一部に採用して、それを大陸的な並木大路の間にはさんだのでは、一層不調和である。吾人はむしろ濱町の洋風公園の意匠に對して好意を持ちうる。殊にこの公園の植栽は成功してゐると思ふ。噴泉や記念塔のデザインもよい。プールも立派だ。然しこれは少し贅澤すぎる。アメリカへ出しても、あまり金目にかけてもひけをとるまい。さういへば、錦糸公園の正面百余尺高さ廿五尺からの偉大なる列柱も、あまりに異國的に、又場所柄あまりに過分に見える。あの思ひ切つた五千數百坪の大芝生も、贅澤といはねばなるまい。

隅田公園の櫻を三列に植込んだ大陸的な道路公園は、適切な着想に相違ない。將來大東京の一大名所を約束してゐるが、外側の塀塀やうの植込みはどんなものか。

街路樹の將來を支配するプラタナス

小公園は小學校に付設せられて、その意匠は殆ど同一の型にはまつてゐる。千坪の地積に對して、あまり要求が多すぎて、コセ〳〵としてゐる觀がある。殊に植込みについてさうだ。然しこれまでにない新新な意匠の建設物や裝飾が現れて、新味を添はしてゐる。これも從來の小公園に比べると、長足の進歩の跡を見せてゐる。この種小公園が多く小學校に引ずられて、その位置が裏通りに配置せられ、從つて帝都綠化の能率を十分發揮してゐないのは、詮方ない次第である。

農愛に街路樹であるが、これは復興幹線の幅員廿五米以上のもの、電車軌道を通せざるものでは廿一米以上に對して植栽せられ、街路の壯觀を一層强調すべく二列乃至四列に並植せられ、都市綠化の急先鋒を承はつて現れたものであつて、その本數約一萬九千本と數へられる。樹種としてはプラタナス最も多く、イチフ、アヲギリ、アカシヤ等物珍しいものもないが、これは街路樹の條件として當然なことである。ベリのマロニエーが消える頃、世界の街路樹はプラタナスによつて完全に征服せられるであらう。わが帝都綠化の第一人者として、舶來種プラタナスを推さねばならぬのも否み難い運命ではある。（カットはお茶の水展望公園）

○自分の寝室にうじが樹が備うてあるけれども之れを聽くことを欲する好きなれば、早く改る習癖のある自分さんが、それが妨げとなりて困ることもある。志かしめのなるものは、自分の後る人が教えする時は、兎もすると聽くことも有る。一昨夜も此夜も三木愛花の談話を聽くに。此人は服部撫松（誠一）の門人である。幸九春社に東京新聞と共に把つた人である。幸者に社説を作り、撫松流の俳諧を著しまする狂斜のことを漢文にいた。此頃の漢文がまるで無らず。漢文小説くしいことが読まれた。愛花の書いた此いろくの軍行本が世に行はれたるの此。自分は山田一郎と内外改造社に陽の出る

標原製

の新聞を出した時は九春社の編輯所を借りて執筆した為めに、三木愛花といふ人が机を並べた。志かし交りい者と浅く共に酒を飲んで談笑するやうなことは一回も無かつた。一別以来音つれ思つたこともなく、生死の消息さへも分らぬ。さて、近来角能の評者として愛花の名が新聞に載る。斬新くさの消息を知つた。近来は角力通として著書を著してゐる。之れは宮崎の出てゐるのを見る。と可なりの人である。自分と同年或は以上かも知れぬ。どう見ても四十四五年前と見れば、おのが年と同年である。うじうの年齢は林納で備

話を著した文章といふ全く趣を異にする一集北条氏の記
りも交つてゐるどこの出身であるか知らないが、成い
服部と思はれかもしれぬ。浪花の節もたのかしく、世
上に伝つてゐる角能に関する挿話やロマンス
が誤つてゐるといふて考証つくめの談をなすことから
事の真いからう。吉田好角家い此人の故実を考
ふことの連の繰りてゐる。彼れの角能研究も久し
いことい見へる。四十五年前の九春社美人の紀庭の
新橋見こうの角えあつたが、今い其の遺物い変した
ゐる。南時を思ふと夢や夢を出ることも心地が
する。

三月十四日

○あゝ銀座をぶらぶら歩くが、夜今九時頃まで歩つくと

とい雪うも無つた。九時頃の紀せを見ようとの話をし
ようと、モダーン超高い高いをみるがきを此夜
ハ国ちう見人今の大阪の場合、一変を拝した紀せも
数年来した時い九時三十分をとる きもみたが街側い
拝歩を絶めもみた、ちうう白書の板といい異つて、縁
日ひもあるかのやうな賑つてゐた。行きあふ男女い殆
ち超高速ばかりでいうあゝ女ゝ階級のものが時
を知らぬうのことくぶらぶらしてゐる、今日中
此のあが夜まで僅うに酉業を卒つて氣楽
の海ひ歩くのひもあるうか多くも賑つてゐるの
を一番を喫した。大抵の料理屋の閉ちゐたがこ
のまれ寄つて迄を入れたことのうへビーやいうえ

這入つて見ると、可なり廣い演奏が人を以て填つてはいまくき空席を拵かすのうち面倒を感じた。
空ゆうとう家子人と敬くる程の人がみなが活吉
生徒である、こゝをジヤンしれ表演とて拵お
てんと勝誌を出すのを何ちの。ウエーター
ハ女ばかり、怪しきカフエーの廣めのこと客
の既養を番するこゝのひいちうつれあ美く花
い男子と女子を一人ゐかつてみるうかつた。日元繁盛
人を義者の集まりれから、演論をやつとう喧嘩をや
つたりしさうるゝかあまつて都かで一二粋漢が
紀をして何か罵のちらぬ演説をするゝものみれから
滿場の冷かしまを拍手すると、間と無つて駄弁

標原製

を這入する。妻君の出生時代ちゝ、美人をあを文き流
ーハセるへひあくら。ゆくう罵倒を浴びせかけて喧
嘩が起りそうな雲行が滿場の書生いうんを意
氣がちのゝ、羽根〻〻思れた。こんく〻一湯
と滿を引いて今の者を此室の意氣地のちの
を動いた。つらく思れる雲の古年時代ちゝは
南座が劫る折りの歌舞伎あつた、ゆえが今ハピヤ
ハウス とうれのである。夜の十時を義こゝのが
解をちゝて劫る行動をちゝ。しみるの苦
を思くの敢て石思議ハちゝ。

三月十者

○その數菓中南都元興寺の古狀び都鳥を作り
れ書会を寄れ、材の里すんれ移び、彫刻ゝ者ま

れてあるこんな材料は必ずしもよい素材の方がよろしい
元奥寺の古くから滅びた寺の遺材を使
することもあるのである。家紋と葉の寺の古材を
つれた方形の茅かがある。これも杉材であるが、こんなもの
杉戸の数多かあるが、これこそ小品茶室の材として
玩賞に値する
○都下の婦人の腰下の流行を云へば西洋婦人に倣つて
ストッキングを穿用することである。
西洋の婦人は洋装をする時は必ず西洋婦人に倣つて
ぬぐに倣はさるを得ない電車の中でも
フェーのウエートレスでも皆日本人である。この風俗の
為めにストッキングの需用が著しく強くなる

標原製

もるべきかまた其の数量をやはりことが無いが
まず強今婦人達は絹靴の上を穿つてゐるのもあ
るが、実体が見えて変くやうな薄い絹靴を穿
つてゐるのも又変と実に天れカタビラを着れ
ゐるやうな趣がある。婦人職工の裏革は
裏革といふ毛皮のスカート状のものを着
することが初まりでこんの復裏の長さも手頃
かん便の為めに膝下と行りんしてゐる
美めらスカートが行はれ日本服で用ゐてゐるよ
かりまるへこんの絹靴
のへ行はれる雖い。全体日本の婦人と雖ども
習慣の為しめら無い、陰の例ともいふべきに江戸

時代に義者（男）の摩擦に出るに足らざるを覚ず、まず
這び出て、アブナ絵などの踊り文脛を露いしてゐる
けれども、まんべんなく脛を露はすまで用いず、男の脛
習慣も脛を露いすことは無い、貴族社会なるすべて
は紋の長袴を引きずり、足が袴の中に隠れて
仕た。婦人が馬に跨る時も袴を穿いて、乗馬姿
の芸者の婦人は田圃に稼くにマクレヤレとなる
袴やうものを今も用ゐる。旅中は股引
を穿く、おらくんべ必ずこれを着用
者の脚下は湯もいを着け、その上に襦袢
を着ける。長襦袢は勿論出しを兼用すること
もある。紋羽織りめんやは深川女の御新造に成入た

ことが書物に見える。肉体を露すは特権を有した
みなのを、今はストッキングを通して脛の格好を現へ
すまでの変化した。

○婦人の御記事は何のか言人の思意の心記つれまがあ
るから、うつくしくもみるその恥をかく、蛔汁ちゃる
別の敬向いまい装ぜもあるが或る婦之婦人の
蛔を選ぶ大さと格好とは少しも異ちたの
ようものを、そのうつくり拵くて技巧とのだ、えん自
を注いだ、奥を一つ〳〵自身を作ふまで行つて穿
桜の蕾と並べて撰ぶらしとのだ、之人も満足と
といふ話がある。

○今時の美選び平大校友の当選したれ、まが七十二

校友當選代議士一覽

今般行はれた衆議院議員總選擧に於て芽出度く中原の鹿を射止られた校友諸君は次の七十三君である。校友一同を代表して茲に深く心からお祝ひ申上げる次第である。

東京府
第一區（前當選五回）三木武吉（三七邦法）
第三區（前當選四回）安藤正純（4推選）
第三區（元當選六回）田川大吉郎（一三邦法）
第五區（新）大山郁夫（三八大政）
第六區（前當選二回）佐藤正（四二哲學）

神奈川縣
第一區（前當選三回）三宅磐（三二六政）
第二區（元當選二回）横川重次（6哲學）

千葉縣
第一區（新）多田滿長（四四大政）
第二區（前當選六回）鵜澤宇八（四〇推選）

茨城縣
第三區（新）風見章（四二大政）

群馬縣
第二區（前當選四回）木檜三四郎（一六邦政）

北海道
第二區（前當選三回）坂東幸太郎（四四大政）

青森縣
第二區（前當選二回）兼田秀雄（四〇專政）

秋田縣
第一區（元當選二回）信太儀右衛門（4推選）

山形縣
第一區（前當選三回）佐藤啓（一三邦行）
第二區（前當選二回）清水德太郎（6推選）

福島縣
第一區（前當選四回）粟山博（四五大政）
第二區（新）助川啓四郎（三九專政）
第二區（元當選三回）鈴木寅彦（二九邦政）
第三區（前當選三回）比佐昌平（四一大政）

長野縣
第三區（新）宮澤胤勇（四四大政）
第四區（前當選九回）降旗元太郎（一八邦政）

新潟縣
第一區（新）野澤卯市（一三邦政）
第一區（元當選二回）松井郡治（一七邦法）
第二區（前當選二回）佐藤與一（四二推選）
第四區（前當選四回）增田義一（一六邦政）

富山縣
第一區（前當選三回）寺島權藏（2大政）
第二區（前當選二回）松村謙三（三九大政）

石川縣
第一區（新）武谷甚太郎（12推選）
第一區（前當選四回）永井柳太郎（三八大政）
第二區（前當選五回）櫻井兵五郎（四四專政）

福井縣
（元當選二回）三田村甚三郎（一三邦政）

靜岡縣
第一區（前當選三回）庄司良郎（四一英語）
第三區（前當選三回）永田善三郎（四一專政）

愛知縣
第一區（前當選六回）小山松壽（一八邦法）

三重縣
第二區（新）牛場清次郎（三四邦政）

岐阜縣
第一區（前當選三回）山田道兄（四〇大政）

滋賀縣
（新）

堀部久太郎（四一大政）
（前當選三回）
堤康次郎（9大政）
（前當選三回）
清水銀蔵（三五政）

大阪府

第一區（新　）
石原善三郎（四三專法）
第二區（前當選七回）
紫安新九郎（三三邦政）
第三區（前當選八回）
武内作平（三二推選）
第四區（新　）
森本一雄（4大政）
第五區（前當選七回）
田中萬逸（6推選）
第六區（新　）
大植清左衛門（9推選）

京都府

第三區（前當選二回）
水島彦一郎（三九大政）

和歌山縣

第二區（前當選四回）
小山谷蔵（三二政）

兵庫縣

第三區（元當選三回）
水野正巳（三六推選）
第四區（元當選三回）
田中武雄（11推選）
第四區（前當選五回）
土井權大（三六政）
第五區（前當選六回）
齋藤隆夫（二七邦行）

岡山縣

第一區（元當選二回）
清水長郷（四一專政）
第二區（前當選十一回）
西村丹次郎（二三邦政）

廣島縣

第一區（前當選三回）
藤田若水（三一邦行）
第二區（前當選七回）
山道襄一（三九大政）
第二區（新　）
木原七郎（三九專政）

山口縣

第二區（前當選二回）
澤本與一（三一邦政）

鳥取縣

（元當選二回）
由谷義治（四五推選）

島根縣

第一區（前當選三回）
木村小左衛門（13推選）

福岡縣

第一區（元當選三回）
河波荒次郎（二一邦法）
第一區（前當選二回）
宮川一貫（四四大政）
第一區（前當選四回）
中野正剛（四二大政）
第一區（新　）
簡牛凡夫（9專政）
第二區（元當選三回）
青柳郁次郎（三九大法）
第四區（前當選四回）
坂井大輔（3專政）

熊本縣

第二區（前當選二回）
中野猛雄（四〇大政）

佐賀縣

第一區（新　）
栗山賚四郎（二二邦法）
第二區（元當選二回）
田口文次（四三推選）

長崎縣

第一區（前當選三回）
西岡竹次郎（6專法）
第二區（前當選五回）
牧山耕藏（三九大政）
第二區（新　）
佐保畢雄（三九專政）

讀書案内

質問

高等試驗行政科司法科中に於ける「經濟學」の良參考書二三御教示を乞ふ

答

河津選、河田嗣郎氏著の「經濟學」その他試驗委員著書を參考とするが可ならん。

（五八頁ヨリ續ク）

橋本定之君（13專商）
教世軍旭川小隊長として基督教布教に從事。
永井天秀君（昭2專商）
函館製菓株式會社旭川支店
大西只雄君（昭3專政）
副團長等として坂東君と共に當地青年指導の衝に當らる。
笠原容三君（昭4專政）
一條通に於て當地有數の酒造業を營する
七條通　宮下春一郎（三四邦政）
近文二線　澤田清太郎君（4專政）
五條通　横山貫一君（9機械）
五條通　辻周君（9大商）
七條通　伏見彦雄君（9大英）
五條通　藤光遵君（12大法）
五條通　末岡秀助君（昭3專政）
六條通　太田龍太郎君（昭4國法）

橋附の八百板も今は全く無い。板橋の文化式に架け替へられた風俗の跡は無くなつた。文化といふことがあるのも知れないが、あまりコンクレート化することである。今日の復興で目ぼしいのは、何人といふて道路の幅を擴げてコンクレートにすることである。大道路の中央で道路を固めることであらう、大道路の中央に樹木を植ゑる設計とすることである。樹木が無ければ市街を緑化することである。此の老り方は云ひ過ぎかもしれない。中央の土のあるものよりも側の道路が始りの度に舗装を入るる度に少しづつ高くなると云ふのである。道路の幅のある為めに中央に樹木を植ゑる事

ことがよろしい、衛生上必要であるのみならず、いざ火災などゝなると、雨の降る時でも、首筋を置く所もなく、ぬれる。電車を乗る必要が起る。ぬれ、ぬれ、こゝ元もなく、家もなく、やはり話の種地こゝ庭園らしいものを心つけの風致の為めもあり、小細工を兼ねてみるのも感心して第一の場合の雨雖地こゝ公園らしいものを心つけこゝもよく、雨が来ても、屋根に附属と織坊の矢目まるが、自分の本宅の執るべき風致の為めもあり、更に衛生の為めもあり。

日本橋
公白木屋藥品案内
振替東京九八番
○市内の方は日本橋本店、五反田、店で御求下さい
○地方の方は振替東京九八番を御利用願ひます

良藥を薦む
肺病　結核症
卓効藥
ウニコール
呼吸器疾病に
確信を以つて薦む
毎日夕方から熱が出る人
寝苦しく寝汗かく人
白木屋

朝日案内
種別一件一回　一回以上二回
十五行一十六圓一十五圓
十行十圓九圓五十錢
五行五圓四圓七十錢
三行三圓七二圓四十錢
求職一圓七一圓二十錢
▼▼▼若名料は五十錢特殊の地方版に限り一部分掲載されぬ事あり豫め乞御了承……
朝日案内部用・九内一五五番へ

◆遊覧と旅館◆
松竹座
毎日本共座
ユヴレ　浅草・世界の東京七景
アンナ　新宿・四時・八時
カレニナ　帝都復興更新
テンビ　猛獣映画
ウニ　浅草十時半
ウニ　新宿一時半
ウニ　帝都三時半
ウニ　帝都七時半
ウニ　帝都七時半
ウニ　帝都八時半
ウニ　帝都八時半
ウニ　帝都八

日本橋
公白木屋藥品案内
振替東京九八番
○市内の方は日本橋本店、五反田、店で御求下さい、
○地方の方は振替東京九八番を御利用願ひます

肺病　結核症
車効藥
ウニコール
呼吸器疾病に
確信を以つて薦む
良藥を薦む
毎日夕方から熱が出る人
寝苦しく寝汗かく人
白木屋

朝日案内
遊覧と旅館
極別一件一回一回以上一回
十五行十行十大圓十五圓
五行五圓九圓五十錢
三行三圓四圓七十錢
木職二圓七錢二圓四十錢
▼▼▼若名料は五十錢
▼▼▼方歌に跟り一般の特殊の地
▼▼▼ぬ事あり豫め乞御了承
朝日案内御用丸内一五五番へ

松竹座
ユヴレ　浅草・世界の東京七卷
アンナ・カレニナ　新宿・時・四時・八時・景
テヒ　帝都復興　東新田
ラヂオ
民刑借家法相談
無料
特別援助
大東法律事務所
各專門
四谷荒木町八
チクオンキレコード
高價買入
交換御賣拂
通神保町一電神一七三
吉澤商店
東京
書畫買入
石井商店
電話牛込五二〇一
東京牛込區市ヶ谷八幡町
書畫買入
吉澤商店
電神田三六一四
東京
うどんパン機
セイメン
浅草區東仲町
貸金
利子
本郷區湯島
上田合名會社
電話三七七〇番
下谷
恩給共濟部
恩給扶助料
四谷區東信濃町
電話四谷五一七番
芝給者相談所
貸金
上田合名會社
電話三七七〇番
下谷

ことがよろしい、衛生上必要、火災等と、いろいろ（ある）雜の
置く所もなく、六畳電車
れ、また、ここ元もう電車
や博士の論也、こ庭園
風致の為めもあしくハ
来しもみるのハ感心が出来
した為一の博覧の為雜地
を心つけることもよろしかろ、完備
と織坊の矢目まする。自然
風致の為めまた史蹟衛生の
為。

日本橋川に沿い川べり町は依然として古い傳統をその店構へに示してある下駄問屋、蝙蝠問屋、太鼓屋等々……

言問橋は隅田川最大大橋の中で

隅田川に沿い川べり町は依然として古い傳統をその店構へに示してある下駄問屋、蝙蝠問屋、太鼓屋等々……

言問橋は隅田川最大大橋の中で

工費二百三十一萬六千圓、三ヶ年を費して漸く昨年四月完成した、この橋は清洲、永代と共に壓さく空氣利用の畫期工事（潜函を沈下せしめて基礎とする）によつたものとして有名である、すぐ橋際の隅田公園ドライヴ・ウエイ（自動車歩道）との調和もいい

×　×

隅田公園は東京唯一のリバーサイド・パーク、大川隅田川をまたいで浅草側と本所側との沿岸約五萬六千八百坪を占め、浅草橋付近から言問橋附近まで六百五十間縱長く續いてゐる、本所側にはといふやうなドライヴ道があり、川に沿りて快適な散歩道がある、こつちの散歩道には列の柳樹があり、浅草側には桜樹の（[illegible]）

はもつとも簡素なスタイル、装飾といへば橋上の照明燈位のもの、然し河面から望む言問橋は非凡な力強さをもつて迫つてくる

て、雄勝の美を誇すだらう

牛嶋神社の青くさびた屋根が樹間かくれにのぞいてゐるのも興味しく、海水戸御川公邸跡の庭園も時代がついて見事である

×　×

言問の下流は浅草橋を隔てゝかけられた鋼形橋の強かうな感じを與へる黒い太い鐵骨アーチは行人に頼母しい氣持ちを起させる、橋は「躍る白龍」である、橋脚はタイドアーチ、六十分ノ一のはり物線のこう配を描いてゐる

御厨地は隅田公園に沿うて鋼形橋の本所側たもとを川沿ひに、橋を右に見て蔦炭記念堂に向はせられる『豊濃は向島百同の上宮から撮影した鋼形橋付近、凸版は御遷幸御道

ツを愛して居りました。この關係から

ンと一層熱意になつて、私は寫

教へて貰つたのです』（横濱湖港側面

事の艶明
年刊）

徴すると、おキチなる者はお芝居

とのしたゝか者でもなかつたやうで

僅か二三度に過ぎなかつた事が確實

れる。この他に、後の人がおキチとお

を故更に交ぜ合せた語り草も今に傳は

がありとすれば、その事實は小説より

白いにきまつて居る。それにしても、近

下田地方で郷土愛に燃ゆるお歴々が、ヤ

吉の史蹟保存だの遺物蒐集だのと、飛ん

熱狂ぶり、遙々東京の明治文化研究會——

野、尾佐竹兩博士肝煎——までが、お調子

に乗つての宣傳もあつたと聞き及ぶ。出鱈目

の大衆文藝家なら兎も角も、多少名のある先

生方がこの狂氣は、餘り見つともよい話ではない。あまり馬鹿氣切つてゐるところを見ると、或はこれも近ごろ流行の太陽の黒點のせいかもしれぬ。

ばかりで六十兩の

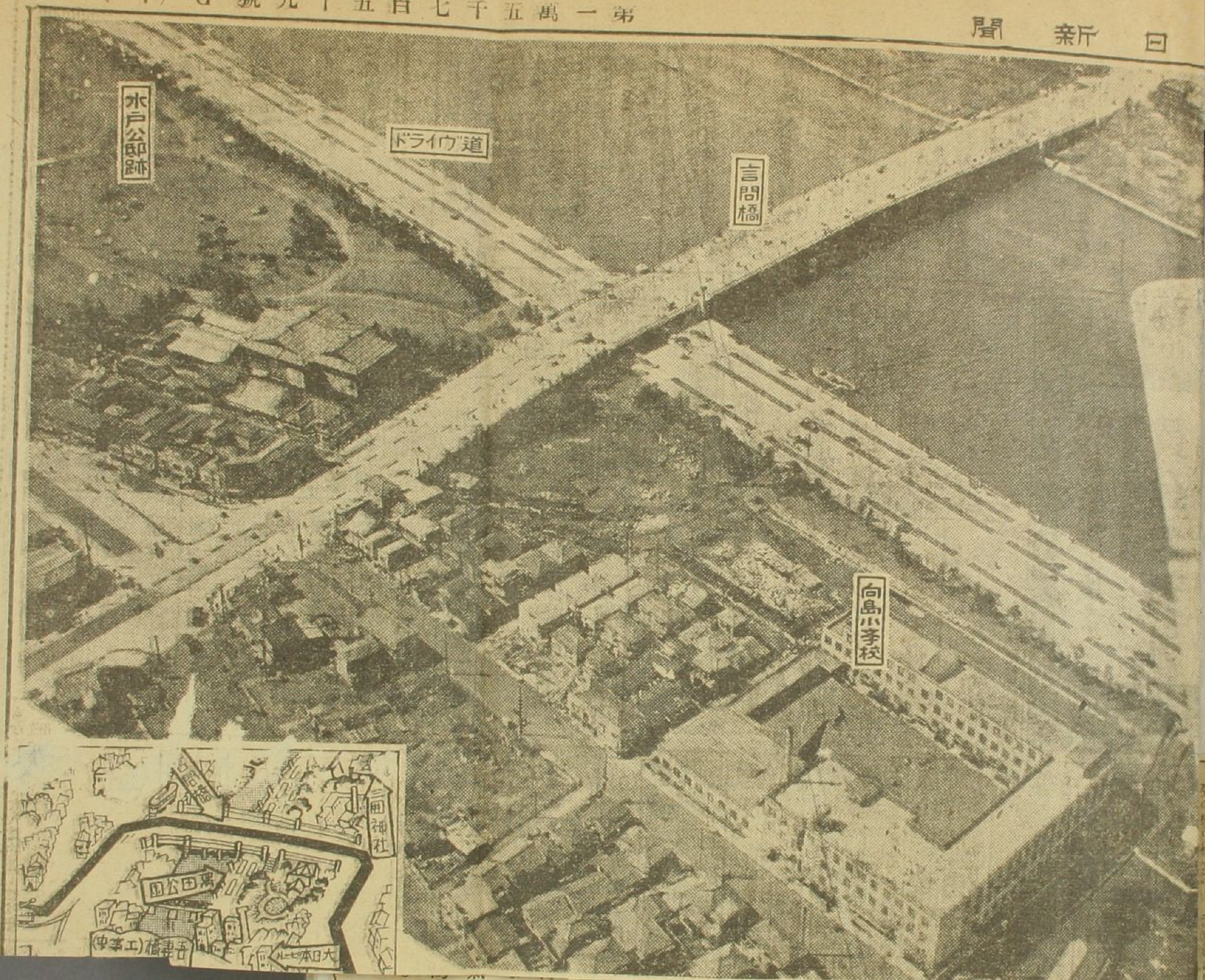
ましたが、ヒュースケンの方は其後ソ

役を言付かつて晝夜一所に居りましたから

をしたのですが

ンとは柿崎の玉泉寺といふ寺に宿泊して居

たので、私（下岡蓮杖翁）は兩人の給仕のやうな



て居りました。この關係から私は寫
と一層熱意になつて、
へて貰つたのです』（横濱港側面
龍明）
ると、おキチなる者はお芝居
たゝか者でもなかつたやうで
三度に過ぎなかつた事が確實
の他に、後の人がおキチとお
交ぜ合せた語り草も今に傳は
すれば、その事實は小說より
つて居る。それにしても、近
鄕土愛に燃ゆるお歷々が、ヤ
存だの遺物蒐集だのと、飛ん
々東京の明治文化研究會――
博士肝煎――までが、お調子
もあつたと聞き及ぶ。出鱈目
ら兎も角も、多少名のある先
は、餘り見つともよい話では
鹿氣切つてゐるところを見る
近ごろ流行の太陽の黑點のセ

ことがよろしい、衛生上必要であるのみならず、いざ火災となると避難の場所となり、前者を置く所もない、市電車も……れば是れに充てる事ができる……や橋詰の餘地に庭園を……風致の為めはあしくはない……乗して居るのは感心が出来る……して第一の場合の避難地を忘れたこともよいが、究竟……と織巧な点も注目する。自然の風致の為めまた吸気衛生の……さ。

隅田川に沿ふ川べり町は依然として古い傳統をその店構へに示してゐる下駄問屋、鼻緒問屋太鼓屋等々……

言問橋は隅田川新六大橋の中ではもつとも簡素なスタイル、裝飾といへば僅に橋上の照明燈位のもの、然し河面から望む言問橋は壮重な力強さをもつて迫つてくる

總工費二百三十一萬六千圓、三ケ年を費して漸く昨年四月完成した、この橋は清洲、永代と共に歴さく空氣利用の潜函工事（潜函を沈下せしめて基礎とする）によつたものとして有名である、すぐ橋際の隅田公園ドライヴ・ウエイ（自動車散歩道）との調和もいい

×　×

隅田公園は東京唯一のリバーサイド・パーク、大隅田川をまたいで淺草側と本所側との沿岸約五萬六千八百坪を占め、吾妻橋付近から言問橋付近まで六百五十間細長く續いてゐる。本所側にはといしのやうなドライヴ道があり、川に沿うて快適な散歩道がある、こつちの散歩道には四列の櫻並樹があり、淺草側には

て、隅田の美を現すだらう

牛島神社の青くさびた屋根が樹間かくれにのぞいてゐるのも興床しく、舊水戸德川公邸跡の庭園も時代がついて見事である

×　×

言問の下流吾妻橋を隔てゝかけられた駒形橋も強からな感じを與へる黒い太い鐵骨アーチは行人に頼母しい氣持ちを起させる、厩橋は「躍る巨龍」である、清洲橋はタイドアーチ、六十分ノ一のはう物線のこう配を描いてゐる

御預物は隅田公園に沿うて駒形橋の本所側たもとを川沿ひに、厩橋を右に見て震災記念堂に向はせられる【寫眞は向島言問の上空から撮影した駒形橋付近、凸版は御巡幸御道

日本橋
公白木屋藥品案内
振替東京九八番
○市内の方は日本橋本店、五反田、一店で御求下さい
○地方の方は振替東京九八番を御利用願ひます

良藥を薦む
肺病　結核症
卓効藥
ウニコール
呼吸器疾病に確信を以つて薦む
毎日夕方から熱が出る人　寝苦しく寝汗かく人　變なセキや痰の出る人　原因なしに肩の凝る人　食慾不振で痩せ衰る人　胸に刺す様な痛のある人　等は肋膜炎、肺病結核症の徴候です　直ぐウニコールを御服用あれ
電話用　一月分　二月分　十七圓
白木屋

胃腸藥呑めば直ぐ利く
ダイゼスター白
消化不良、食慾不振、胃膨脹、胃潰瘍、慢性急性腸加答兒、慢性急性胃加答兒……其他頑固なる胃腸病に良し
百二十錠入　壹圓五十錢
三百六十錠入　四圓
電話用　一月分　二月分　九五圓
白木屋

痰と咳
カフキユーア白
助膜炎、肺病、結核症
喘息、百日咳、……
白木屋

唐人お吉異聞

遠藤萬川

何につけても逆さ事の流行る今の世の中、降るアメリカに袖をぬらさぬより、存分ぬらした方で褒めあげらるゝ唐人お吉なる者の馬鹿さわぎ、人を馬鹿にした者だと眞面目に憤るほどの事でもないが、その眞相を語るに就いて、最も信頼すべき故下岡蓮杖翁の實歴談に一應は耳を傾けてみるがよい。

『下田が假りの開港場になると、米國からは最初の領事としてハルリスと云ふ人と、それに和蘭語の出來るヒュースケンと云ふ人が下田へ來ました。下田には御用所といふものが出來て、こゝで更に横濱開港の談判をしたのですが、ハルリスと、ヒュースケンとは柿崎の玉泉寺といふ寺に宿泊して居自然心安くなつて打開けたことも頼まれました。二人は月に二度か三度位御用所へ出て下田奉行と談判をするばかりで、其間は別に用もなく退屈に堪へられないと云ふので、私に二人から女の世話を頼まれました。それは兩人の私行に渉ることで少し話し難いが、併し人情の自然だから敢て隠すにも及びますまい。私は二人からの頼みで諸方を捜して色々相談を掛けて見ましたが、却々今日のやうにオイソレと應ずる者がない。五六十兩の金を出して貰つて多くの藝娼妓を呼んで種々説付けた末に、おキチ、おマツと云ふ二人の女を得心させて、おキチをハルリスに、おマツをヒュースケンに配しました。其頃ハルリスは六十ばかり、ヒュースケンは三十五六でしたらう。おキチは二十五六で、おマツの方は二十ばかりでした。併しハルリスはおキチに、ヒュースケンと一層懇意になつて、私は寫眞のことを敎へて貰つたのです』

（横濱開港側面史、米國領事の艶聞　明治四十二年刊）

右の實話に徴すると、おキチなる者はお芝居になるほどのしたゝか者でもなかつたやうで其關係も僅か二三度に過ぎなかつた事が確實と思はれる。この他に、後の人がおキチとおマツとを故更に交ぜ合せた語り草も今に傳はるものがありとすれば、その事實は小説よりも面白いにきまつて居る。それにしても、近頃の下田地方で鄕土愛に燃ゆるお歴々が、ヤレお吉の史蹟保存だの遺物蒐集だのと、飛んだ熱狂ぶり、造々東京の明治文化研究會――吉野、尾佐竹兩博士肝煎――までが、お調子に乘つての宣傳もあつたと聞き及ぶ。出鱈目の大衆文藝家なら兎も角も、多少名のある先生方がこの狂氣は、餘り見つともよい話ではおマツを愛して居りました。この關係からヒュースケンと一層懇意になつて、私は寫眞のことを敎へて貰つたのです』

（横濱開港側面史、米國領事の艶聞　明治四十二年刊）

朝日案内
極別一件回一回以上二回
十五行　十六圓　十五圓
十行　十圓　九圓五十錢
五行　五圓　四圓七十錢
三行　二圓七十錢　二圓四十錢
求職　一圓五十錢　一圓二十錢
▼▼▼廣告料は五十錢特殊の地方衆に限り一部分掲載されぬ事あり豫め御了承……
朝日案内御用は九内一五五番へ

◆遊覽と旅館◆
松竹座
り限日本共座兩
ユヴレ　浅草・世界の東京七景　一時・四時・八時
新宿・帝都復興史新画
浅草・十時・二時・四時・六時・八時
新宿・十時・二時・四時・六時・八時
映画・十時・二時・四時・六時・八時
アンナ・カレニナ・テンビ・七卷
新宿・十時・二時・四時・六時・八時
浅草・十時・二時・四時・六時・八時
新宿・十時・二時・四時・六時・八時
洋室大ベッド室完美朝湯有
洗足ホテル　電在原六一〇
宿の
春の行楽と温泉
箱根
瀧の湯　蓮黄温泉
旅館キノクニヤ
電宮の下三番

◆業者◆
洋服類十ヶ月々賦
背廣　オーバーレンコート各種
最近流行小供服類
外交部の設備行り御注文服は即時專門技手を派遣す
月賦は東京市内外接續町村居住者に限る
共　四谷新宿寺丁目　丸共本店　電話四谷四一八九番　六一七三番

お彼岸
東京市營多磨墓地ゆき
電車自動車連絡
賃金大割引
新宿より墓地前まで
電車賃二十錢
王京

◆ラヂオ◆
ラヂオ用
神田乾電池
東京大森　神田乾電池製造所
サイモトロン
UY二二七
定價金四圓
ラヂオ礦石の王
フォックストン
ラヂオ用
朝日乾電池
朝日乾電池株式會社

うどんバッ機
浅草區東仲町
セイメン
電話牛込五二〇一
石井商店

書畫買入
東京牛込區市ヶ谷八幡町二
書畫買入
神田表神保町一
電神田三六一四
吉澤商店

チクオンキレコード他
高價買入
通神保町一電神一七七
民刑借家法無料相談
各專門辯護士擔當
交換御殿參上式
蓄聲堂
東京
特別援助
四谷尾木町八　大東法律事務所

元金等許し便下断り
○○○
セイメン
浅草區東仲町
書畫買入
石井商店

貸金利子
土地建物
八分五厘
三年以上十年迄
其他會社二番
賦又年賦及借番
本人限書類供持
参迅速に取扱

恩給扶助料
受給者相談所
恩給共濟部
四谷區市電しなのまち下車
短期無利子數料立番
電話四谷五一七番

貸金
本郷區湯島同朋町
上田合名會社
上野廣小路下車
下谷三一七〇番
電話三一七〇番

朝日新聞社同横丁有楽町二の四
省線有楽町下車
牛島牛込
電銀二六六一
料理ゆたか

恩給
●年金
●扶助料
●新宿驛前安
●方賣老年無保
●利月一分より
●年金
●短期無料
●来談を
●淺草區南元町一番
●電車藏前下車
双葉商會

恩給
四年半迄據置
●短期格安
●淺草區南元町一番
●電車藏前下車
双葉商會

恩給
年金扶助料
立替保證有無に拘はず
本位
川名
市電大塚仲町下車護國寺へ向電車
小石川區東書柳町二丁目

恩給
年金扶助料
輕低利
即時取引
電話四谷三三〇九番
報功社

恩給
年金扶助料
月賦せず月立替非無
電話麻布二三五八番
便利社

恩給
年金扶助料
月賦せず月立替非無
電話麻布二三五八番
便利社

恩給
御車情拜承低利如何標氣安に三時迄即刻お立寄
四谷區花園町四
田中茶鋪

恩給
年金扶助料
立替保證有無に拘はず
本位
川名
市電大塚仲町下車護國寺へ向電車
小石川區東書柳町二丁目

恩給
年金扶助料
輕低利
即時取引
電話四谷三三〇九番
報功社

恩給
年金扶助料
月賦せず月立替非無
電話麻布二三五八番
便利

原因なしに肩の凝る人 食慾不振で痩せ衰る人 胸に刺す様な痛のある人 寒は肋膜炎、肺病結核症の徴候です 直ぐウニコールを御服用あれ
電話用 一月分 二月分 十七圓
木屋

ウニコール
電話用 一月分 二月分 九五圓
白木屋

胃腸藥呑めば直ぐ利く
ダイゼスター
消化不良、食慾不振、胃壁弱、胃潰瘍、慢性急性腸加答兒、慢性急性胃加答兒……其他頑固なる胃腸病に良し
百二十錠入 壹圓五十錢
三百六十錠入 四圓
白木屋

痰と咳
カフキユーア
助膜炎、肺病、結核症 喘息、毒日咳、……
白木屋

春の行樂と温泉
箱根
郊外一望二千坪 省線五反田乘替 靜室二間均十分 洗足池驛前 洋室大ベット室完美 朝湯有 電話荏原六一〇
洗足ホテル
薬の湯 硫黄温泉 旅館キノクニヤ 電宮の下三番
新・二時・五時半 八時半

洋服類
歐米流行新柄生地 背廣 オーバ 各種 レンコート 高級 流行
小供服類
外交部の設備仕り御注文は即時專門技手を派遣す 月賦は東京市内外接續町村居住者に限る

月々賦
四谷新宿壹丁目
丸共本店
電話四谷四一八九番 六一七三番

お彼岸
東京市營 多磨墓地ゆき
電車自動車連絡
賃金大割引
新宿より墓地前まで
電車賃二十錢 大人三十三錢
王京

神田乾電池
東京大森 神田乾電池製造所

サイモトロン
UY二二七
交流化時代來る マツダランプの
定價金四圓

フォックストン
古河電氣工業株式會社

朝日乾電池
朝日乾電池株式會社

銀行
土地
家屋
農
勸
夏目合名會社
金星舍
恩給
報功社
便利社
田中茶舗
川名
双葉商會
石井

唐人お吉異聞

遠藤萬川

何につけても逆さ事の流行る今の世の中、降るアメリカに袖をぬらさぬより、存分ぬらした方で褒めあげらるゝ唐人お吉なる者の馬鹿さわぎ、人を馬鹿にした者だと眞面目に憤るほどの事でもないが、その眞相を語るに就いて、最も信頼すべき故下岡蓮杖翁の實歴談に一應は耳を傾けてみるがよい。

『下田が假りの開港場になると、米國からは最初の領事としてハルリスと云ふ人と、それに和蘭語の出來るヒュースケンと云ふ人が下田へ來ました。下田には御用所といふものが出來て、こゝで更に横濱開港の談判をしたのですが、ハルリスと、ヒュースケンとは柿崎の玉泉寺といふ寺に宿泊して居たので、私（下岡蓮杖翁）は兩人の給仕のやうな役を言付かつて晝夜一所に居りましたから自然心安くなつて打開けたことも頼まれました。二人は月に二度か三度位御用所へ出て下田奉行と談判をするばかりで、其間は別に用もなく退屈に堪へられないと云ふので、私に二人から女の世話を頼まれました。それは兩人の私行に渉ることで少し話し難いが、併し人情の自然だから敢て躊躇すにも及びますまい。私は二人からの頼みで諸方を捜して色々相談を掛けて見ましたが、却々今日のやうにオイソレと應ずる者がない。五六十兩の金を出して貰つて多くの藝娼妓を呼んで種々説付けた末に、おキチ、おマツと云ふ二人の女を得心させて、おキチをハルリスに、おマツをヒュースケンに配しました。其頃ハルリスは六十ばかり、ヒュースケンは三十五六でしたらう。おキチは二十五六で、おマツの方は二十ばかりでした。併しハルリスはおキチを二三度呼んだばかりで六十弗の金をくれて斷はつて了ひましたが、ヒュースケンの方は其後久しくおマツを愛して居りました。この關係からヒュースケンと一層懇意になつて、私は寫眞のことを敎へて貰つたのです』（横濱開港側面史、米國領事の饒舌明治四十二年刊）

右の實話に徴すると、おキチなる者はお芝居になるほどのしたゝか者でもなかつたやうで其關係も僅か二三度に過ぎなかつた事が確實と思はれる。この他に、後の人がおキチとおマツとを故更に交ぜ合せた語り草も今に傳はるものがありとすれば、その事實は小説よりも面白いにきまつて居る。それにしても、近頃の下田地方で鄕土愛に燃ゆるお歴々が、ヤレお吉の史蹟保存だの遺物蒐集だのと、飛んだ熱狂ぶり、遙々東京の明治文化研究會——吉野、尾佐竹兩博士肝煎——までが、お調子に乘つての宣傳もあつたと聞き及ぶ。出鱈目の大衆文藝家なら兎も角も、多少名のある先生方がこの狂氣は、餘り見つともよい話ではない。あまり馬鹿氣切つてゐるところを見ると、或はこれも近ごろ流行の太陽の黑點のせいかもしれぬ。

○今日本は内実上海外に於ける妊婦法は
コンドゲンで卵子を焼くのである。自分のかり人つ
てみる片山(四)嘉の子息は、コンドゲン百円であるが
曾つて私に話したことがある。自分と同しまつの医
が七人あるが皆子供は無いとこぼして居る
ことがある其れから此の者(四医)は藤沢の者の
鉛の腸管を腹部に入れ、アセイ藤沢の者が、
でみて矢張り子が無い。それでコンドゲンは(妊婦)
役立つものである。今日(腸管)行なんでおるのは婦
人の腹部に施すのである。大概四回位つゝ二ヶ月も
続けんと二年位の効力がつくとつゝてある。コン
トゲンはいろゝの医者も使ふ。それから他の

標原製

法を考へて居るらしい、その医者の
名も知りたいものだが、他人を焼くもの
かゝるプロレタリヤ達は行なはるべき。懐妊後二三ヶ
月後まで此法で(妊)娠するものもあるそうだが、既
に或許せる兒の形を為すまでの施すことは、人(道)
的の、卵子を焼く丈なら人(道)に差支なへ
ものと考へる、まかり並米利加ではすでに許して
居る。

○誰人やらが「医」は威ありとこれは強ち幸
福なことである。富者は割て医法の威厳を無
視するが「医」は社会の剣である。まかり富
者のうそつき医を恐れるへ。或る富者は医

をホノーロ威ともず平素もある。今の不流の病者も云いたれてみることのて義しく、「医」に全く権威がなへ。
保し医者が自から威ひて威を揮つて効を奏することがある。そんな大なる門戸を張つて大家らしく氣取り、或は典薬とか博士とかいふ大看板を掲げること、設令ひそれの医師の技術が乏しく貧弱であつても、患者の疾病が軽快に赴くことがある。こんな患者等の心理作用で、医師を信ずる所から来たものか、絶対の信頼・鄭重の信心からと謂ふいふことく、患者自身が医を威ひてゐるからで、実は自分が自分で治療してゐるのである。多くの疾患は精神心用で流し

横原製

得ることを今更云ふまでもない。
○プロレタリヤ種類の今の世の中、プロ者の医師が出てきけんがるるは、医術へ仁術であると云ふの意味だ。医者へ信仰を敬てするひとりけんが仁といふ云くぬ。医者があまく偉くなつて、自動車が飛び回つて、ちからとる回診料や車代や薬料をえるとあつては、プロは海のんのである。昔しは町内をテク歩いて病家を訪問する医師があつたが、今はそんと見高らぬ。此流の医師のことをあらまるれしいものである。昔しからこのことが、医者の格式が上がると同時に病家が減る。こんへ貧民の病者が謝金の多きを恐

れて道を絶つからである。所謂る神典藥をもつて
祈り乘つて多くの供物をつれて出く、その往診び
に清めとすると、五七の供物を要する
から、到底プロの手に入り難い。家に生つた大つ
たを使うから、貧人は潤かうと入り難い
る。仕事をする患者が業者に生活
費を出すから、多数の貧者は苦しいくらい
人である。医に仁の一字を
許すことの出来るのは、大家である。貧者に
施療することと、毎日脳を絞りて病家
を訪問することである。浅田宗伯などは大家である
つたが、市ヶ谷の貧者を見て
元前医者は

標原製

は情士踊が遊撃さん、博士とすると俄かに不幸
な神子こうつてプロを拒手ませぬから、新門は
は神法の医者が断絶あり、
プロしタリヤ式術と唱ふるものまで出る世の中
プロレタリヤを標榜する医者は何故まる出
るのであるか。
○貧の御国から出た北谷川春といふ人の自
から治療の出来ることが、今考
へると北人が下等プロレタリヤ式の医者を美し
成りと云へる。濟生の食とする
校は他分貧弱な下宿屋の様なやうな学校で
あつたが、貧乏人ばかり志すこの多く北の学校と

這入つた。ここを見物した他の高等の医学校と違
入れば、あの分除あらうが、海生学舎に比べて海生も
全国の数日つた医業を学んだ人たちのかどれもたち
くあるか知れないほど生徒身者が多い。寒村僻地
に医業者のあるのは此学校のお蔭である。医学
の程度が高くなるにつれて、洋式の医家
も多く作り出した。どんな僻村の地にも洋家の
あることゝなつたのは古谷川の功と信ぜねばならぬ。
古谷川は「プロ階級の為めの医術を教ゆ」つまり
階級の為めの医を心つけることが出来ない
あらうと思ふ。海生学舎の食い庸醫の巣窟所
であるとい、罵るよりの誤り

標原製

である。恰かも五大私立法学の校が少し出した法律家
を罵倒すると同じことで、あの新法典発布後
五大私立法律学の校が無つたらどうして新法典
が滞りなく行はれるか、海生学舎もちろん
りもは、洋法医術が全国を行渡ることであら
うか。共に文法の時勢を考へて批評せねば
ならぬ。公平を失することゝなる。
○昔ブルジョア階級の醫者が貴族を往診
して困るこゝに話が伝つてゐる。三田村高岳の江戸
の裏おもて」の内に御典醫が多くの供物をつんで
威張つたことを載せ、中実に長崎かつた二三二と
御医家で名高かつた（新潟）南北との間に起つ

以遠流が出始めてある、二三治と南北い熱意の河物び
あつたが、その次い先角海戦薬を二日を送る太
平時代に、母性さ人を困らせるやうな悪戦を
やうに、南北が病気だ、しかみるとせくに、二三治も
懇長な典薬があつたのを幸ひに、是非薬を程
けも南北の為の一診をと頼むものの、誤しも出かけ
えると酒屋とある南北い勢ろくまいことか。大藩
の未診い病気の為めまん先上のうの立ひ出がさを
待遇と困り、供勢の手前を役うえ、時
ちうす病病を見くい、後ろの馬鹿つき、二三治
ま羽し後輩をしいとあるが、今者拙宅もあるを
うる流び、ち時の典薬が見家に迷惑かうえれ

標原製

動く姿の電送に
観衆たゞ驚歎す

大成功のテレヴイジョン實驗

この秋は早慶戰を

世界に誇るべき新時代的な晴れのテレヴイジョン實驗は十七日午後二時より本社講堂で公開されたこの日東久邇宮殿下には定刻三十分前に本社に御成遊ばされ小泉逓信長官、岡外史將軍をはじめ多數の名士も續々來集する一方熱心なファンまた定刻より押寄せてさしも廣い講堂も埋め盡されて身動きもならぬ盛況、午後二時下村本社副社長の開會の辭につぎ成澤計畫部長の紹介で包み切れぬ喜びをたゝへつゝ山本忠興博士が拍手に迎へられて壇に立つ博士は「人類の欲求とテレヴイジョン」と題し

「蓋のラヂオから今は姿のテレヴイジョンの時代が來たテレヴイジョンの研究は五十余年の歴史を持ち各國とも相當研究は進んだが今日このやうな大多數の前で實驗公開するのはこの點でも世界にいまだ聞かぬ、テレヴイジョンも

急所 をつかみ得たから、もうあとは完全な設備をする資力さへあればこの秋の早慶戰もラヂオの蓋の放送と共に姿をスクリーンの上に實現し得るのは單なる夢ではないと思ふ」

といふ意味の講演をした、次いで川原田政太郎教授は「テレヴイジョンの解説」の題で圖を示しつゝ「遠くに居て物を見ようといふ研究は一八四二年バーン氏が始めて研究をはじめ一八七七年ペークウエル氏がバーンの裝置を改造しそれよりだん〳〵と研究されて今日のテレヴイジョンの時代が來た」と通俗的に詳説し最後に

小泉 逓信相は

「山本博士、川原田教授の完成されたテレヴイジョンは世界的なものでわが國のため喜ばしいまたかうした尊い研究に對して朝日新聞が努力されることは私共も感謝にたへぬ」

といふ意味の祝辭を述べて後十分間休憩して四時五分前よりいよ〳〵實驗にいる、眞つ暗にされた會場内は緊張し、台臨の殿下にもいと御熱心に御覧になつた

「最初は無線で愛宕山の放送局から放送されたのを實驗いたします」とラウドスピーカーで豫告して間もなく、ステージの中央に置かれた

五尺 四方のスクリーンに電波が乘つてくる、細い數條の線は見る〳〵太い線となり、模様となり、波を描く

側に取つけたラウドスピーカーは「今の音波は今日は晴天でありといふのです」「口笛です」「鐘の音です」

と一々音波の解説をなし、最後に大きな圓を送つて來たがどれも大成功だつたが無線は他の放送があるため十二分の用意をする時がないのにはいづれも苦心した終ると五分間休憩して今度は本社九階の展覧會場に設備した

送映 機室から有線で實驗する

日の丸の國旗も、本社旗も英國旗も、佛國旗も、どれもみな風になびてゐるまゝくつきりとスクリーンに浮んだ、觀衆は思はず「大成功」と叫んで拍手は引つ切りなし、驚異の眼が輝きだす頃、一々紹介されてまづ杉村本社副問の笑顔が現れる「私は杉村廣太郎であります」スピーカーで呼びかけた聲は姿と一致する、お次は下村本社副社長「殿下の台臨を仰ぎまたこの盛況を見たことは何共感謝に堪へません多くいひたいのですが何しろ光がまぶしくて……」といふ意味の言葉と共に姿を送つて一同を驚ばせ

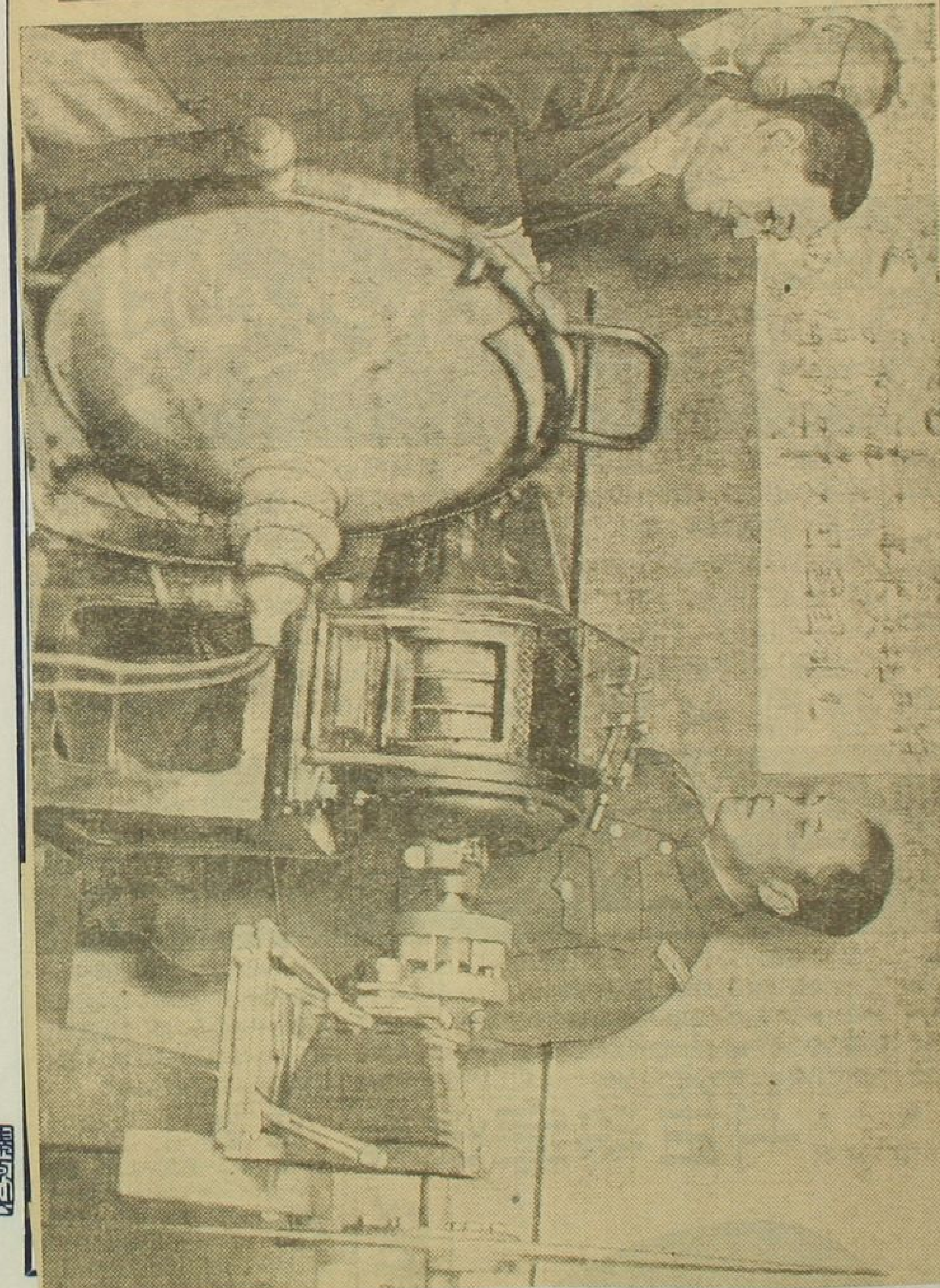
今度 は長岡將軍が、スクリーンに出て來る

「私のヒゲも世界一であります」と自慢のヒゲを撫んにひねるのがそのまゝ出て來る小泉逓相も「私もちつとお話したいのだが下村博士がおつしやつたやうに光がまぶしいのでしてこれで御免を……」と姿と聲を送つてハンカチで額をなでながら引下つて行くのがそのまゝ映るすると今度は川原田教授の顔が出る髪をなでタバコをふかしてゐる煙までハッキリと映つた、かくてファンは驚きと喜びと滿足の眼をじつとスクリーンにすひ寄せられてゐる、時、成澤計畫部長が顔を浮きださせて「今日の實驗はこれで終りといたします お靜かにお歸りを」と閉會のあいさつを述べて五時散會したが約一時間にわたる晴れの實驗の成績は完全無欠、これによつて世界一のテレヴイジョンと折紙がついたわけだ

第一萬五千七百五十八號 G (第三種郵便物認可)
新聞

實驗御覽の東久邇宮殿下

テレヴイジヨン實驗の前にて右宮殿下、中央說明申上げるは
發明者山本博士、左端下村本社副社長



電氣は萬能なれば、萬能を如實に發揮するところの人間の努力と精勵とを待たねばならぬ。動く態を電送する工夫は早くから外國で研究され或る程度まで成功して居るが、山本川原田氏の研究ほど成功しておるは他の研究は早稲田大学の電氣科ではされて、そしてそれが公開され一般の喝采を博すまでに進んだ。それは早稲田の誇りである。吾等は数日前早稲田大学の實驗室に見た、その時は稲田の方が大きく現はれ、ここに收められたのは東京朝日の講堂に公開された狀況の一斑である

三月十八日記

○日本は開國に際し米國の八十年の指導を受けて啓初當の學術を継続し、深く米國を徳とした時代

が多く、なくなる者も甚だ多い。米国との修好は各国の先駆を締結され、それが後の範となった。略々各国とも修好が出来たのであるが、米国との修好は、偏頗のものであった。すると、他の列国との修好を得ようとしてあらう。幸ひに当時米国の使節ハリスは日本の未開に乗じ胡麻化しをやる人物でない。日本の古法を没人び飽迄公平を主とし指導者を任じてゐたから、時の有司も其後の禍ハリスを悪人と呼んで譏てゐる。安政五年堀ハ修好書に徴しても分るが、ハリスが時の南部と折衝の時ある態勢を表し、有司を威嚇した

複原製

ことは、こんまで繰り返した。日本の日誌の記録があるが、ハリスの日誌は、米国を後にしたのち、巨細に亡くなるまで、昨日の尾張藩士の記録は未だ。

安政四年ハリスの江戸に入るや、将軍に謁したときの記録がある。

安政四年十月二十二日（十二月十二日）老中堀田備中守邸に於て、世界の大勢、諸国と交易の必要と、速に開港すべき旨（後略）

一、合衆国と修好被為成候ハ、諸国に於て外国

條約結び成の初而之儀敬、大統領に於ても御
国之義者、他国とも比、親友と相心得居申候
一大統領様、敵対に而も無之、親和を表し、條
約相結、相互に厚く御交誼
一大統領心願に而者、合衆国と堅固の條約
御結成ら、必外国に対し、親厚といと
御心配と儀等者、向後決而有之間敷
存候
一大統領儀、御国の誉を不義、親和を表し、條
約成結、御満足無之、相心掛居申候
一長人と條約御結び被成候、品川沖、五十
艘軍艦引連参り候者と條約成候候共

標京製

者、格別の者に御存
一国々とも條約を為、使節差遣し共、世界
并一合衆国使節者此新元極市条候と
被仰出候い、決而其上役是と申事無
とも條約結成の為を防ぐ、猶は
凡三年国の第七成る頃、求めんと新
七、西国の時機と理據とを具有せる
可き事、即ち金の如き特に高條約
成の為めに其外交官を排斥して、安撫
の時機と理據とを失ふときは、他日有力な
る拡張の来航慶応を受くること有り、別産
今日金の提出する如き意外なる出来有

利なる條件を以て條約を結ぶべきこと論ずるまでもなしん（ハリス日記）

今や余は平和手段を以て通商條約を締結し、日本をして開國進取の新國運を確立せしめんが為めに特に一度の軍艦をも乗りまして江戸に来れり、是れ日本の名誉を尊重し威武を以て開國を強要するの意味を救ふが為なり、今日あるべき窮境を救ふが為なり、如何に當つて和氣を以て、穏やかに細かに説明と共に能く討議研究し、以て最も公明正大なる解決を為すを得べく、開國の運命は遂に必ずや此の如きものなるべしと信ずる（ハリス日記）

東京製

此試み折衝に移るや、日本は多くの不利益を忍んで他の要求に應じ、遂に七箇の條約を締結せり（ハリス日記）

と述べて、外國公使の江戸駐箚、「貿易の承認」、「開港を要求し、溜つて二時間（或は二時間半）を費やせり」

且つ大演説を為せり

此の演説の折衝に文海もまた、ときに臨場指導せしものとなすべきものなり、幕府の有司は初めて実際の政治論を聴き、時勢の変遷を洞察する所があつたと云ふべし

閣老以下各藩代表者の出席者大の興味と注意を以て終始熱心に傾聴したるは

も関係い充分余の意を理解する能はさるものは、屢々質問を提供して余の設問を求めんとせり而福地の幕府意見論も此時の事を記して、幕吏の秀俊と云ふ実に脳の結切なる初めてのものなりしは、はん八膳種の現奪は花形なりしも

迷夢の醒めるかぬき心地したるは大の

多きりきとりいあるべし。

○早稲田大学の入学試験の問題はどこの印刷会社に依頼したるかを捨ておくことも無つたが、今日自分の今我に依頼したとゆへて従前いどこの新人社と化して見ると、印刷自或は

横原製

監獄に新人社とゆふことも初めて少へ比。勿論問題の漏洩を恐るるからの事で、斯る特殊の印刷所は新人社に譲ってあらうが、切角早稲田大学のプリントのテンプレスとゆふ仮名遣ひの我々社が問題概念を使用が無いとゆふのへ、商ふものへことであるのどうもしてもそれでは引受けることゝ思ふからよいと、引受けることゝ思ふ。

問題の数は二十数題ありうも、その紙体の印刷枚数へ十数枚以上及び各問題のを印刷して巻束を書くやうなるものであるので、四方紙の量と安まるのである。早大の入学試験も今日はなるべく偽り難い新模の方法であるべきことい此の数字でも

トし得らる。何時の流涕ハ印刷屋やつても秘
密の確保し難ハ先年流涕して抵議を惹起し
たことあるを流涕を防ぐの方ハ其の問題と
要する日に切迫して一挙に組み一挙に刷り一挙
に学校へ交付するとある。急遽工場の竪祝の意
義と要することハ言ひまでもなく。　三月十九日記
○文政年間上総の三田樵堂ハ刊し居る全身鼠名
といふ書あり、醫ひろく流文雅其他
多く取る平生用ひる字を多し、医家ハ恐らく
知らざる字なるべし、左之若干の字をあげ
聾耳　ミミダレ　町　聹
耳嗜　ミミヤリ　膠　メクソ

標原製

瞟眼　スガメ　逢蛇目　デメ
睫毛　ナガマツゲ　睫　サカマツゲ
齆鼻　ザクロバナ　龆鼻　仰鼻
龆鼻　ミヅハナ　鼻渣　ハナクソ
吱　イキドレ　瘰　セキバライ
心黒　イキザシ　歯垢　ハクソ
齦　ハギシリ　咬牙、齲新、歯怨　ハ
頭垢、雲脂　フケ　戚戚　アカギリ
戦慄　ヒビ　眼瞢、破胴　トコズレ
紫河車　胞衣　孫　サノコタ子
品胎　ミツゴ　品胎　コツ子
毛氏北　ケナガツビ　毛氏牝　ウブケ

角屬 ナスビサガリ
虎北 カワラケ
紅絹 シリノアナ
臙脂 シリ

○竹書物を造る若干の反故を得るやう外四人が増上寺并に上野東叡山坂内を立入る件こつき同書の写二通があつた。今は外国人は見物することが出来るの為めやはり、何度でもよい。縁山でも自由と出入まんとする前者の事初は拒むハ、其後は外人に対する名不二立入ることを許したんだが、徳川氏祖宗の廟の所在する所に西洋者を立入らしめることが出来ると拒む場上寺は拒む難くそうとの説から、

標原製

大体を見ることを得すとしたが、なんとしても事の重大なるものがあつて増上寺は拒む事出来ない所の護国殿や霊廟に立入ることを禁ぜんとし、寺社奉行は拒む増上寺の意を汲み門の元締を設けんとしたことが書面に就て宛ることが出来る寺社奉行の伺書は増上寺の門内国が附属である。上野の宮は特に京都の侍奏二人宛今の方法にもを得すと申さんとするが、前年文久の年聖上より外人東叡山境内に立入ることあるやと且とお尋ねあつた節上野宮より さることなしと申お答ヘ申上げ置き事柄、霊廟を伺ひと云

示教書び書面が出来たるを以て
を以て示す

依輪王寺准后宮仰せ啓達候、抑横濱表
在留の英人江戸並びに東海道の通行の者
東江戸市中者勿論諸藩人等入込、場所に者
御細組、拙者共儀を差許さるべ一万延二酉
年中南山江英人入不苦哉武を其
節を以て別紙を以て准后宮思召表向
南山を儀者在留山内結
果者御徳川山内結
果者御稱を相止其上皇子
御奏請日光御門跡典を以神社を御
遣拙不容易御沙汰柄哉有之候ニ付仮

標原製

今皇国の人民を入、外国人御細組
議者御一已を御差許者難を成
取扱御何と上備神霊を御何を成、
上御不可上奉仰入を其後
去る文久二戌年准后宮御上洛を打南
山江英人を入、芽を儀者を
光帝宮を御名を二付右様を儀
者決而無御座万一向後御考て取扱
御何と上申不置を成方御沙汰仰出を然
而南春中御外国発更6日光東照宮者
礼を儀無之を御拒南山を儀を御和を入、
拙者拙を儀を御出右者を初條約を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文久三年洋学者の使節は正使が池田筑後守副使が河津伊豆守ひきゐる。佛国へ到着した時は奏破翁三世の全盛時代でフオンテンブローの宮殿に観兵式を使節一行が拝謁された。其時副使の河津が鎧兜の行装でアラビヤ馬に乗って皇帝を渇見した。此時を最つてゐる。正使の池田は裏金の陣笠を被つてゐた。馬は走れを見て驚いれが、一目散に走り出した。佛の騎兵隊の中へ飛び込んだ。皆を驚ろかした。ナポレオンは見て大いに笑つて早速別室に流して馬を捕へしめた。珍談がある。

徳川昭武が佛国へ出発する時に供のお附七人は皆

横原製

武士の魂国旗で接戦一発砲の豪傑連であつた。こんな連中が何処外国へ出ようが必ず一死侯を護衛する。巴里へ着いてから洋服を強いて着せると侯を命令があつた。当時の佩刀は武士の魂であるから。お附の面々は武士が佩刀を持たないと海路の未だ人心情が悪くなるから。洋服を着せた。けれども暗の走馬灯の如く洋服を着せた。身は安く恥しく思へると歌がある。

増長心をてらせあることを喪のを

四じ大和魂　伊坂長大

岩倉を正使とし、参議木戸孝允、大蔵大輔大久保利通、工部大輔伊藤博文、外務少輔山口尚芳を副使とし、海路横浜出帆、翌年新橋に入る。

しかるに、流者一行の服装は、いずれも大礼服と称し、礼装に古風を採り来り、岩倉は公卿出身なるが、他は初めて海外に出でたるものなれば、新服は極めて滑稽なりしなり。

此時、岩倉一人結髪にして和服を着け、他は皆洋服を着けたるなり。

岩倉は、結髪の上、シルクハットを載いたるなり。

航海の船中、大寄琴の日は、三艘の船を繋ぎ、岩倉は直垂を着け、他は皆洋服なりしと云ふ。

かかる洋服を着することとなりたるは、大礼服を作らんとしたるに、伊藤博文が、「先ず一行中の春華（後の林董伯爵）は、巴里で注文したる礼服の到着なしとのことなれば、それが今の大礼服の起源なり」と云ふ。

佩剣の尖端は風を刻したることを注文したるに、礼服に相応の金巻が付くべきものと思ひ付いたるなり。

風鳳は巴里人の理解なり。鶏冠は未だ日本に滑稽なりしなり。

文金高島髪は、伊藤の家の使ひたる羅馬に行つたことあり、伊藤家に久しく仕へたる岩倉大使一行が伊太利

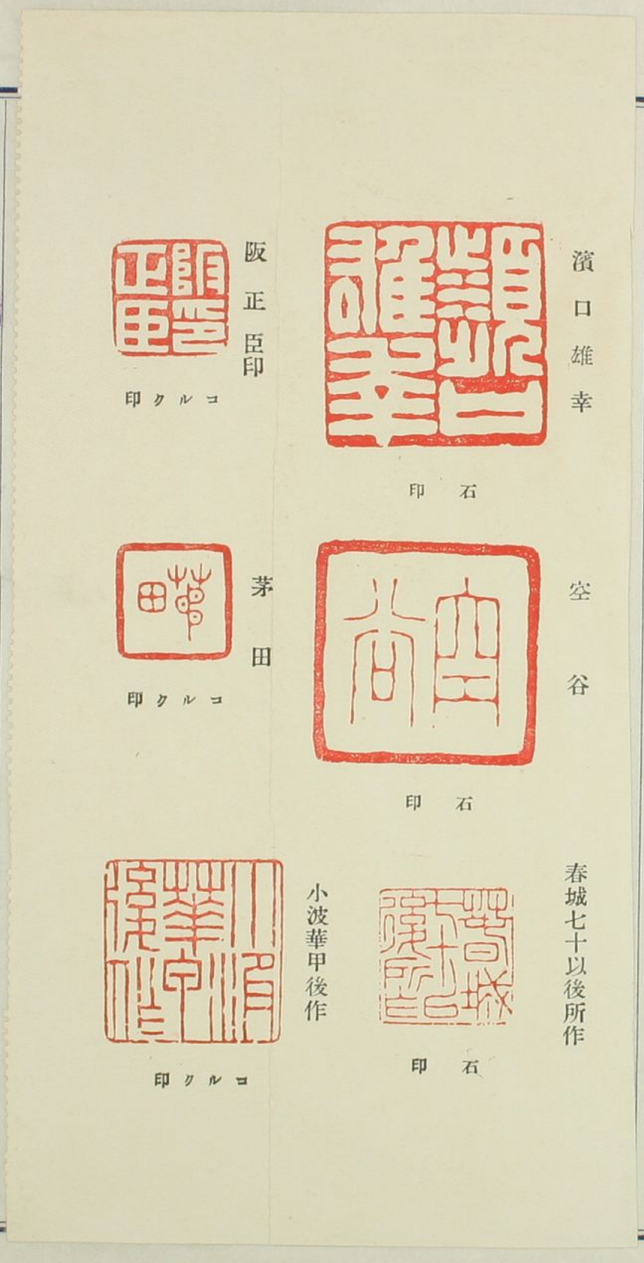
を訪ねた時、文久二年に関するいろいろの文書を示されたが
一同は之れを理解するに不自由を感じたとは全体
は言いてみる。あんなものの大きな点、伊太利地の
外国を知らんとするに、日本では慶応十一年頃
幸の時伊達家が如何なる史料を天保
供しこれを初めて公表されたとあるのは実に驚
外の感がある。
語学教師を伊国で初めて見たのは森先生一行
であるとの話し久米邦武は田口卯吉氏の語学
は日本と行かねばならぬことを考へたのである。久米氏は
の説か一行の説かをしんぬ。先日の南北朝の
一文義の第一番ついこの年やつと完了
である。

標原製

さる、ようなことは北朝方が明治初年の理解されな
ことは殆ど無理の理解である
文久度の第二次遣外使節は横浜鎖港を
要求する為であつた。例の京都会見の出来と関係
異なる点不自由を感じたとあるが、ひとり森田
北村は、よく日本の模倣を為したと言える力量があ
り、寝食を本物があるが、論言する為代に食膳を
は善悪かを考へるとしかやうな訪問の日に
風であるものの、一行も四方の感を抱くとの
接待振りを日本人がめいめいのであるのである。その人はウラジミ
ル、オジウオウイツチ、ヤマトフとえるのもとは
掛川の藩士であつたが、人を殺したる主命を

久しく篠本まつあつた。ヤマトフは印大和文
化の中心地、当時は隆盛を極めた。使節一行と接したものが
後年の印刷に、印流十八年まで生世に日露戦争
を著した。

○島崎藤村耕石に贈した刻せしめた余の印は
耕石が印令の法條に田形田さんとみる。北の印
裏に濱口と陸正臣の雅を知つた其に基づく
の地名であるからである。自分のこれも波のうち
も時の地名に自分の祖先の遺跡
春の山から来たのと小波の近江出身とさい
うものや志賀のといふ古歌から命じたのである
る。北陸の印のヨルクの印が行はれると云へ



る。林の印は浅やすいことの祖先ひとりとが自分
ハコヤ印とたこんを好きこの。耕石の話しま

芋ブ面玉といふ丸印があつた、これハ今存してゐるが、多分今のゴム印であらうと云ふに、コルクの材ハ阿波利用されて産するのが今産であるけれども氣孔が大きいので堅の新面ハ粗雑へから表則ちこれ横の断面ハ彫る、印刷のハ今が彫り無から氣孔が大きくてこれと云ふてみる、コルクの特徴ハ絶對に液体を吸収しない。桜帯ハ軽くて便利である。壓搾すんハ綿ハが左も無んハ伸縮ハ[illegible]から云ふてみる。ものの印ハゴム（ゴムハ）ハ[illegible]ぬが風船のもの印ハ七日校である。此等のものも珍らしかつた時代なこと材料の手家の現界の具とするべきで今いこ

れるとが後のこと無へ

○報知紙が移転景物を今年として江戸文化像展覧会を開のんと計画つて都名の出版とと

清水さん、話を要約を新時代を生すの元勝つの方ーに。実の国者のの江戸文化を語るものとを有比をの負分ハ面と宣彩した。廣俗人ちなどオリスンとあハ一面ニ引主ず様ひある、深世絵をといおから多く出る。○絵り他ちも出ないやうなものを選ぶと命て困難である。偉かに出陳をと洗比をまの十六枚こるきの屏風のことを（国）撰ニ面側のものを（世）人ひ見れ

三月廿二日報

一 柏木如亭去原羽
　　海上春琴花卉絵表紙
　　二枚折屏風

一 特製大本江戸名所図会
　　二十冊之内三冊

一 江戸時代俳人之書かな之洋書
　　蜀山人狂歌撰一帳

一 絵半切 附絵封紙

一 千社納札集 附 清防經集 二冊

一 俳優雲屋復〻 四枚

一 江戸時代年令アル人 [illegible] 有明
　　[illegible] 光鶴 一冊 枕 七言

一 将軍鷹野御養生微考
　　記録 一冊

一 高屋を出し[illegible]去原三清桜の名

七紀き一冊 三浦橋
南世日誌 一冊

一、江戸時代文人游戯の一標本
亀田鵬斎
仏説摩訶酒仏母樂経

一、相撲図式 寛政以前撰 三冊

一、達生図説 立冊
江戸時代産科医術の為達
を示す資料

標原製

一、髪容書図 一冊
江戸時代各種の髪容図

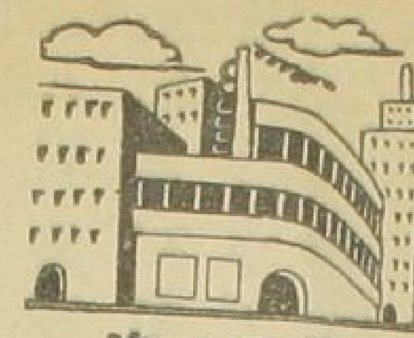
一、銀貨 五兵

一、南蛮時絵馬鞍 一具

以上十点

一、外国日本名産図会 一巻

一、鶏肋雑纂 二集 三冊



復興の姿
（5）

損害卅七億を七億餘で復興

―復興豫算明細書―

大正十二年九月一日午前十一時五十八分關東一帶を襲つた大激震は帝都五百年の文化を惜げもなく奪ひ去つたのである、加ふるに市内八十餘ケ所から發した劫火は、焰天をこがすこと二晝夜、つひに市樞要地域の大部を見る影もなき燒土と化せしめた、市民は財貨を捨て、身をもつて難をのがれたのであるが、後れて焦燥のうちに燒かるゝもの、あるひは水に溺るゝもの、その死傷無慮七萬六千人と稱せられた

〇

その被害の跡を見るに、燒失區域は牛込を除く十四區にわたり面積約三千四百六十萬平方メートル、全市面積七千七百四十八萬平方メートルに對し實に四割三分五厘に當り、燒失建物數二十一萬九千棟、延面積百二萬一千百平方メートルにして、震災前市內總面積の六割一分に相當し、燒失戸數三十六萬六千戸、この罹災人口百四十八萬四千人、總人口の五割九分に達し損害額概算三十七億圓と稱せられてゐる

〇

この異常な災禍に遭遇して民心一時平靜を失ひ、動搖不安日につのらんとするの時、早くも九月二日攝政宮殿下には内閣總理大臣を赤坂離宮に召されて優渥なる御沙汰を賜はり、越えて十二日畏くも帝都復興に關する詔書を渙發せられ『東京は依然として國都たるの地位を失はず、これを以てその善後策は獨り舊態を回復するに止まらず、進んで將來の發展を圖り以て街衢の面目を新にせざるべからず』と宣はせられて、民心の歸趨を一にせられ、帝都復興の根基をお示しになつた

〇

こゝにおいて政府及び市は帝都百年の大計を樹立し、百事倉皇のうちに早くも復興に着手するの手筈を定め、政府は帝都復興審議會及び帝都復興院（現在の復興局）を特設して事業の畫策實施に當り、一方その準則たる特別都市計畫法の制定を以てこれにそなへ、市は東京市復興委員會を設置すると共に、復興事業の施行に當るべき各關係事業局課の内容を整へ、殊に土地區畫整理に付いては特に土地區畫整理局（現在の復興事業局）の一局を新設し、政府と相呼應して、この轉禍爲福の大事業に邁進することゝなつたのである

〇

東京は帝國の首都であり、政治經濟の樞軸、國民文化の源泉であるが故に、これが復興をもつて國家の休戚に關する大事業となるの見地より、政府は東京及び横濱の復興事業を國費をもつて經營するの方針の下に、その計畫を立て直轄事業の執行に當ると共に、市及び府縣に財政的援助を與へ協力をもつてその使命を全うせんことを期するに至つた、されば東京の復興事業は、國と府と市の三者が各自その分擔を定め、協力一致して行つたのである

〇

大正十二年十二月、第四十七臨時議會の協贊を得、その後數次追加更正せられた政府の帝都復興豫算を見ると總額六億四千九百五萬九千五百六十圓に達し、その内政府は東京における政府直接の復興施設費に三億六百九十八萬七千四百六十五圓を投ずるの外、東京府及び市の施行する事業に對する貸付金六千四百六十九萬二千二百二十四圓、同補助金一億五千四百八十二萬百十二圓、東京市復興事業債

小島電話店　城田商店

復興の姿

……（5）……

損害卅七億を七億餘で復興

―復興豫算明細書―

大正十二年九月一日午前十一時五十八分關東一帯を襲つた大激震は帝都五百年の文化を惜げもなく奪ひ去つたのである、加ふるに市内八十餘ヶ所から發した劫火は、凄烈天をこがすこと二晝夜、つひに市街要地域の大部を見る影もなき焦土と化せしめた、市民は財貨を捨て、身をもつて難をのがれたのであるが、後れて焦熱のうちに燒かるゝもの、あるひは水に溺るゝもの、その死傷無慮七萬六千人と算せられた

○

その被害の跡を見るに、燒失區域は牛込を除く十四區にわたり面積約三千四百六十萬平方メートル、全市面積七千七百四十八萬平方メートルに對し實に四割三分五厘に當り、燒失建物數二十一萬九千棟、延面積百二萬一千百平方メートルにして、震災前市内總面積の六割一分に相當し、燒失戸數三十六萬六千戸、この罹災人口百四十八萬四千人、總人口の五割九分に達し損害額概算三十七億圓と稱せられてゐる

○

この異常な災禍に遭遇して民心一時平靜を失ひ、動搖不安日につのらんとするの時、早くも九月三日櫻政宮殿下には内閣總理大臣を赤坂離宮に召されて優渥なる御沙汰を賜はり、越えて十二日畏くも帝都復興に關する詔書を渙發せられ『東京は依然として國都たるの地位を失はず、これを以てその善後策は獨り舊觀を回復するに止まらず、進んで將來の發展を圖り以て巷衢の面目を新にせざるべからず』と宣はせられて、民心の鎮靜を一にせられ、帝都復興の根基をお示しになつた

○

こゝにおいて政府及び市は帝都百年の大計を樹立し、百事萬事のうちに早くも復興に着手するの手段を定め、政府は帝都復興審議會及び帝都復興院（現在の復興局）を特設して事業の畫策實施に當り、一方その準則たる特別都市計畫法の制定を以てこれにそなへ、市は東京市復興委員會を設置すると共に、復興事業の施行に當るべき各關係事業局課の内容を整へ、殊に土地區畫整理局に付いては特に土地區畫整理に付いては特に土地區畫整理局（現在の復興事業局）の一局を新設し、政府と相呼應して、この轉禍爲福の大事業に邁進することゝなつたのである

○

東京は帝國の首都であり、政治經濟の樞軸、國民文化の源泉であるが故に、これが復興をもつて國家の休戚に關する大事業となるの見地より、政府は東京及び横濱の復興事業を國費をもつて經營するの方針の下に、その計畫を立て直接事業の執行に當ると共に、市及び府縣に財政的援助を與へ協力をもつてその使命を全うせんことを期するに至つた、されば東京の復興事業は、國と府と市の三者が各自その分擔を定め、協力一致して行つたのである

○

大正十二年十二月、第四十七臨時議會の協賛を得、その後數次追加更正せられた政府の帝都復興豫算を見ると總額六億四千九百五萬九千五百六十圓に達し、その内政府は東京における政府直接の復興施設費に三億六百九十八萬七千四百六十五圓を投ずるの外、東京府及び市の施行する事業に對する氣付金六千四百六十九萬二千二百二十四圓、同補助金一億五千四百八十二萬百十二圓、東京市復興事業費利子補給一千九百二十五萬三百九十四圓及び防火地區建設費補助として三千萬圓を支出するものとし、合計五億七千五百七十三萬二百九十六圓を直接または間接に東京の復興に資することゝし、その總額七千三百三十二萬九千二百六十四圓を神奈川縣及び横濱市に對する復興費に充てたのである

○

同時に東京府は二千二百萬四千三十六圓を、東京市は三億五千四十萬二千八百二十八圓を計上した、即ち東京復興のためには政府及び府、市の三者を通計して總額實に七億九百三十九萬四千三百二十九圓の巨費が投ぜられたのである、今これら豫算が如何に使用されたかを示すため事業の概目を各執行者別にすれば左の通りである

●府の施設せるもの――幹線街路修築二億五千七百四十五萬八千四百圓▲運河修築二千八百八十七萬九千六十五圓▲大公園新設千百九十萬圓▲土地區畫整理八百七十五萬圓▲防火地區建築補助三千萬圓▲合計三億三千六百九十八萬七千四百六十五圓

●東京府の施設せるもの――國道改修一百二十五萬四千三十六圓▲環狀線放射線道路修築七百五十萬圓▲教育施設三百二十五萬圓▲合計二千二百萬四千卅六圓

●東京市の施設せるもの――土地區畫整理九千三百九十五萬一千圓▲補助線街路修築八千二百十一萬一千九百九十四圓▲路面舗裝並びに橋梁改築千二百四十五萬三千二百廿一圓▲下水道改良三百卅二萬圓▲小公園新設四千二十一萬一千三百二十一圓▲塵かい處分設備百八十五萬圓▲中央卸賣市場建設十六百五十萬圓▲小學校建設四千九十三萬九千九十六圓▲社會事業施設四百五十二萬五千圓▲市立病院建設三百十萬圓▲水道速成並びに復舊一千萬圓▲電氣事業施設三千四十二萬圓▲合計三億五千四十萬二千八百二十八圓

○

以上は、單に豫算面に現はれだけの數字であるが、東京市内の官廳を初め民家の家屋その他の燒失損害のみを以てするも概算三十七億圓に上るといはれるから、東京市以外の都市及び鐵道その他の損害額は優に百億を突破してゐるのである（終）

東京製

八年間の努力酬いられ典型的近代都市の出現

御巡幸の前日に當りて

聖上陛下明日御展望の場所は

御思出深き燒野原御展望の跡

祝へ、踊れ！『復興に優る供養なし』

東京は遂に甦生した――都市計畫史上、未だ曾て世界に其類例を見ない一大事業を完成し、近代都市としての典型的裝ひをこらしながら生々潑剌の意氣と覇氣とに脈動してゐる。足かけ八年、滿六年有半前の、かの荒凉たる一面の燒野ケ原が、まざ〳〵と人々の目に浮びくる

今日、これはまた余りに變化の甚しい壯大美ではないか。

聖上陛下には、明廿四日この復興帝都を御巡幸あそばされ、九段の高台と上野公園西鄕銅像の前より具さに復興狀況を御展望あらせらるゝ。しかもこの西鄕銅像前は、余燼いまだ絶えざる震災直後、攝政殿下としてこの焦土化した痛ましい帝都の姿を御展望なされたところだけに、定めし御感慨深かるべく、拜察するだにかしこき極みである。

國民もこの際當時をかへりみ、現在を思ひ、更らに將來への勇飛を企圖することは、きはめて意義あることではあるまいか。

てそれは、復興市街の何處にも見ゆる姿であり、空氣である。早くいへば、復興市街には

何處にも暗い影がない

じめ〳〵した空氣がない。試みに震災を免れた芝及び麻布、小石川方面の下町を見るがよい。同じ東京にこれほど相違した隱鬱なこみ〳〵した街があるかと疑はれる實に震災は一面國家的大不幸であつたが、また一面からみれば禍

近世日本國民史

（第三十四卷）

孝明天皇初期世相篇

蘇峰生

（八）下級武士其他の擡頭

此の如く養子とか、株の賣買とか、献金とか、賄賂とか、種々の方便もて、世襲制度の缺點を補ひ、弊害を矯め、表向きだけは、世襲制度を、其儀存續し來つた。

されど如何に裏面に於て、斯る方便があり、且つ其の方便が利用せられたりとて、到底世襲制度の年月と共に傾きつゝある趨勢を、支持するとは出來なかつた。此の如くして社會は隨所に、不適所、不適材の情態を現出し、其の位置と材能とは、殆んど全く顚倒するつた。乃ち清朝の末路に於て、清朝の擁護者たる滿洲八旗軍が、一切役に立たなかつた如く、參河武士を中權としたる所謂る旗本八萬騎も、殆んど無用の長物となり了つた。而して之に反して其の頭首を擡げ來つた者は何者ぞ。

幕府に於ては、概して旗本の最下級、及び御家人其他の徒輩であつた。各藩に於ては、下級の士、若しくは輕輩、足輕、或は鄕士の徒であつた。固より其中には藩府に於ても、相當の位置を占めたる旗本もあり、各藩に於ても、上士乃至家老等の中にも、然る可き人物が無つたとは云へない。但だ概觀すれば、位置と材能は顚倒し、而して上流は頹廢的氣分の代表者となり、下流は新興的氣分の代表者となりつゝあつた。

凡そ舊制度の頹廢は、新制度の發

當時、一黑雲してしない終らうとしてゐる時代の變化を見たことは、可

週刊　俗謂話

改善を要する家庭電氣設備（上）

＝新案電氣冷風機＝

工學博士　伊藤奎二

◇住宅の電氣設備としては、一室に一個の電燈さへ點いてゐればよいといふ風に、極めて簡單に考へられてゐるのが、わが邦一般の現狀である。

◇併し電氣器具も次から次へと、斬新なものが色々現れて來るこのスピード時代に、一九三〇年式の家庭生活を營む者には、こんな簡單な設備では滿足されない。

◇夜間電氣スタンドを使ふ場合でも、一々天井につり下がつてゐる電球を拔いて、スタンドのコードを差込んでゐるのでは、

手數もかゝるし、體裁も惡い。

◇電氣扇を使ふにしても、天井の電球の代りに俗にいふ目玉を差込んで、更に電球と電氣扇のコードを接續するなどは音に戶介であるのみならず、立派な壁紙や活花で飾られた床の前に、蛇の如く、不體裁なコードが垂れ下がり、室內裝飾の立場からも、大に調和の美を害ふことになる。

◇今日一般に使つてゐる電燈は、笠の上にスキッチが付いてゐるので、

電燈の點滅に甚かゝる上、紐を、ら後、部屋への便を感じ、手探スキッチを捜さぬやうな不都合

◇ために、人部屋へも、ツイけ放してゐるが金が定額制であ制ならいざ知ら制に改まつた今これ程無駄な電

◇その他、ればこれらもあ吾々の日常生活方面に非常な進たにも拘らず、設備だけが取り四十年前はじめ電燈が出來た當麻らぬものを平使つてゐるから

◇電燈以外の

つたので、これからはその性能が實際的に發揮出來るか否か、實驗してみなければなりません」

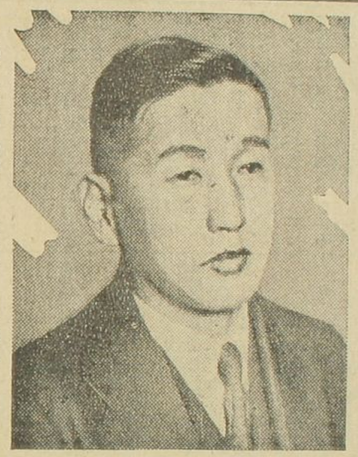
東京日日新聞社

當てり祝へ、踊れ！『復興に優る供養なし』

東京は遂に甦生した——都市計畫史上、未だ曾て世界に其類例を見ない一大事業を完成し、近代都市としての典型的裝ひをこらしながら生々潑剌の意氣と覇氣とに脈動してゐる。足かけ八年、滿六年有半前の、かの荒涼たる一面の燒野ケ原が、まざ〳〵と人々の目に浮びくる今日、これはまた余りに變化の甚しい壯大美ではないか。

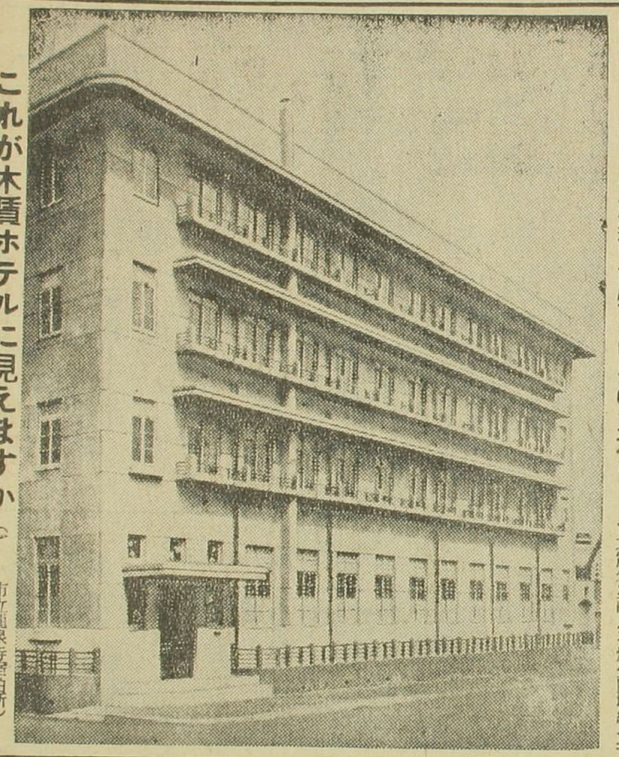
聖上陛下には、明廿四日この復興帝都を御巡幸あそばされ、九段の高台と上野公園西郷銅像の前より具さに復興狀況を御展望あらせらるゝ。しかもこの西郷銅像前は、余燼いまだ絶えざる震災直後、攝政殿下としてこの焦土化した痛ましい帝都の姿を御展望なされたところだけに、定めし御感慨深かるべく、拜察するだにかしこき極みである。

國民もこの際當時をかへりみ、現在を思ひ、更らに將來への勇飛を企圖することは、きはめて意義あることではあるまいか。



東京市長堀切善次郎氏

當時、一瞥雖としたい赤ちやけた燒野ケ原のたゞ中に立つた時、果してこれが元の東京——いや、人間の住める街になるか何うかを疑ふと同時に、一種の絶望的長大息を漏らした者も少くなかつた。しかしながら、當局の迅速なる對策、一致團結の力、國民の不退轉の勇氣とは、遂に復興事業を成しとげて、所期の目的を貫徹するに至つたことは、たゞに東京市民のみならず、全國民の歡喜であらねばならぬ。試みに復興事業による風景整理によつて建設された市街を一巡して見よ！何といふ快適さだ。そこには聰明の輝きがあり、意志の強さがあり、矣的美があり、而して近代のあらゆる科學を使ひこなした綜合的文明がある。歐米の都市に比べても、決して遜色はない。若し震災前の東京のみを知つてゐる人を拉して來て、日比谷公會堂屋上展望台などから更生東京の姿を見せたら一足飛びに歐米の大都市に行つたやうな錯覺に陷りはしないか。戀慕綿として連つた黑色の甍の海は、跡形もなく拭ひ去られて、そこには半洋風の家屋が整列よく並び、處々に、によき〳〵と中天に聳え立つ新樣式のビルディング、コンクリートとプラタナスの並木に彩られた廣々とした道路、美と頑強を表徵した壯麗な橋梁、すべてが驚異である。もう今日では日本橋など余りに貧劣で見すぼらしい。直ぐ川下の江戸橋に比べると、大きさの點でも美觀の點でも殆ど問題でない。銀座の東側を一文字に走つてゐる第一幹線道路は、その幅員實に二十四間、將來の銀座となるのだが、今日の銀座のやうに神經衰弱的でなく、沿道の建物も中央の並木も、何處までも朗らかさと強さを持つてゐる。そして、復興に優る供養はなし」だ。



これが木賃ホテルに見えますか（市立龍泉寺宿泊所）

大學の巢くらへ

堂々たる小學校舍

新東京新風景の隨一

竣工した校舍百七校

新東京の姿の上で、最も目を惹きやすいのは小學校の堂々たる建築である、何れも耐震耐火の鐵筋コンクリートの三階建で、一校廿四學級、延坪千二百廿坪の標準としてゐる。それに兒童の衛生と情操を良くするため大てい學校の隣接地に廣闊な、しかも親しみやすい小公園を設けたので、美觀と實益と相まつて小國民の教育上多大の貢獻をしてゐる。その規模の點においてはそこいらの私立大學など足許にも寄りつけない。震災前における東京市立の小學校は、約二百校で、何れも木造建築であつて、その耐久年限は二三十年を出でないのでこれを改めない限り、東京市は毎年に五校づゝの小學校を永久に改築せねばならぬ狀況にあつた。偶々大震火災によつて市立小學校百十七校を燒失したので、これを悉く前記のやうな耐震耐火の建築に改めることになり、しかして震災後起工したるものにして今日まで竣工したるもの百七校（この外震災前より起工してゐたもの五校、震災當時工事中だつたのを引繼いだもの三校は何れも竣工）である。この新建設事業費は三千八百六十一萬圓で、內國庫補助額九百六十五萬二千余圓で、市の負擔は二千八百九十五萬七千余圓である。

一番難物だつた區劃整理の話

最初反對した地主連

地價が騰貴してニコ〳〵

こんどの復興事業中、最も困難だつたのは區劃整理であつた。即ち大震火災による燒失區域約一千百萬坪の殆ど全部といふべき約九百廿萬坪に對してこれを施行したのである。復興事業中の大部分はこの區劃整理であつた。この燒失區域に日暮里、三河島、南千住、砂町の全部又は一部を加へ、これを六十五地區に分劃し、內十五地區約百五十萬坪を內務大臣が、五十ヶ地區七百九十二萬坪を東京市長が施行したのである。これが發令された當時は

換地問題

移轉問題、土地の評價などで種々の難問題に遭遇し、加ふるにこれを政爭の具に供せんとする不心得な者が輩出して市民を煽動し、大いにその進行を阻害したのであつた。しかしその內に市民の方でもだん〳〵その本質がわかつてくると、自ら進んでその進捗を計つたやうな次第である。また第一回に着手した麹河台の區劃整理の結果が非常に好成績だつたので、市民がそれに安心をしたことも重なる原因の一つである。區劃整理によつて得た市

櫻原製

民の利益はいろ〳〵あるが先づ、

保安上 から見る時は

道路が眞ッ直ぐで、幅が廣くなつたから交通事故が少なく、萬一火災の場合でも、消防ポンプが火元まで飛び込んで行けるやうになるし、それに避難するにもたいへん困難を緩和される。一體、東京の道路といふものは、江戸時代からそのまゝ引きついだものが多いので、今日の都市生活の道路としては甚だ不適當である。江戸時代の道路は德川幕府が、市街戰を豫期して築造したのであるから、曲つたり歪んだり、狹かつたりするのが多く、そのために交通上甚だ不便を感じてゐたのであつた。それから

衛生上 から見る時は、

各宅地が何れも道路に面するやうになつたから、通風、採光、排水などが必然的によくなる。震災前繁華な市街に住む者は、屋内から青空をのぞくやうなことは絶對になかつた。こんどは居ながらしてそれが見える。『僕の家の座敷から空が見えるよ』といふ挨拶は、震災前の市民に取つては何よりの風流であり誇りだつたが、今日ではもう通用しない。しかし大震火災を免れた山手付近の町家には、やはりこれが多い。更に

交通上 から見ると、道路の系統が立つてゐるから、時間の經濟をはかることが出來、多年の紛糾だつた町界地番も思ひ切つて整理せられたから、訪問又は通信上の便利はたいへんよくなつた。またこれを

經濟上 から見ると、宅地の形が正しく整つて來たから、敷地が十分に利用されるやうになり、市街地建築物法上、建物の高さがその前面道路の幅員に正比例的に制限せられたから、道路の幅員が廣くなるに伴ひ、高い建物も建てられ、又市街地に必要な各種公共設備が完備したから、宅地の地位が良くなつて、地價が著しく高騰し、總ての點に從前と面目を

一新し た市街が現出した。大正十五年五月に竣工した東京郊外日暮里の耕地整理の區劃整理についてみると、整理前においては、整理前には平均坪當り價格六十圓だつたが、昭和二年一月末には、整理後の價格七十七圓五十錢となり、その騰貴率は二割九分を示し、又大正十五年十月竣成した第六地區たる御茶の水、駿河台方面の焼失跡における整理前の平均坪當り百九十五圓だつたのが、整理後の昭和二年一月末の賣買價格は平均坪當り二百八十圓で、四割四分の騰貴である。その他何れの地區においても、整理後は整理前の價格に比して相當に騰貴してゐる。最初、區劃整理に反對した地主さん達に取つては整理樣々である。

帝都復興祭を祝して市民諸君に寄す

東京市長 堀切善次郎

帝都復興の大業に對する過去六年有半の苦鬪は報いられ、茲にその完成の報告を申し上げることの出來るのは不肖、東京市長の職にある者として喜び心から喜びに堪へない次第であります。殊にこの度は畏くも龍駕を復興の都大路に奉迎申し上げ、御親臨の下に完成の盛典を擧行し得るのでありまして、これ聖慮の下にもる吾々市民の無上の

光榮と して 聖慰の深きに感激措く能はざるところであります。

顧みれば大正十二年九月一日、突如として襲ひ來りました大震火災のために、わが東京市は忽ちにして大半を燒失し、五萬八千余人の市民を犧牲にし、百四十八萬余人の罹災者を出したのであります。實に古今東西を通じ、大都市の蒙つた最大最悲の震災であります。當時被害の如何に

悲慘で あつたかは、今も尙われ〳〵の眼前に新たなる程で、市民は喰ふに食なく住むに家なく惻々として途方に暮れてゐたのであります。この時に當り、畏くも皇室におかせられましては、殊の外御軫念あらせられ、早くも九月三日御内帑金一千萬圓を御下賜あらせられ、當時

攝政宮 殿下であらせられた 今上陛下には、時の總理大臣山本權兵衛伯を赤坂離宮に召されまして、優渥なる御沙汰を賜つたのであります。此に於て政府は、急きましても直ちに果斷の處置を以て、應急救護の事業をはじめ、全國各地赤心然として同情を寄せて、救援に全力を注がれたのであります。之が爲めに

人心も 漸く次第に安定して死中に活路を得るに至つたのであります。當時內外各地から送られた義捐金品は實に一億一千八百萬圓を超ゆるの巨額に上つたのでありまして、市民はその同情の厚きに唯感泣するのみであつたのであります。尙 攝政宮殿下には震災直後余燼未だ消えざる市內を二日間に亘り、隈なく

御巡視 あらせられ、越えて九月十二日には、詔書を下し賜ひ

「東京ハ依然トシテ我國都タルノ地位ヲ失ハス是ヲ以テ其ノ善後策ハ獨リ舊態ヲ回復スルニ止マラス進ンテ將來ノ發展ヲ圖リ以テ巷衢ノ面目ヲ新ニセサルヘカラス」

と宣はせられ、帝都復興の根本方針を御示しになつたのであります。實にこの

詔書こ そ今日帝都の盛觀を迎へるに至りました最も力強い基礎でありまして、之に依りまして政府は直ちに帝都復興の大計畫を建て、市亦之に應じて復興、

三月十九日で終
復興記念帳
地上より撮影せし物
空より撮影せし物
時は出涙の航空より
相々相
古き帝都
現代の東京を代表して居り商全を期して居り芸を以て華々しく初興行上の
際して
竹羽屋一門を以て華々しく初興行上の
竹羽屋一門を以て華々しく初興行上の
竹羽屋一門を以て華々しく初興行上の

面目を新し

御造幣

歓呼の

橋と道路

市で執行した

殆ど完成した大部分

補助線

慶祭費

七億圓

金堂と屋が大繁昌

弁慶橋

象牙の

この不景氣で

お役に立つ各社會事業

市立病院が出来た

溫かい手を撫でて待つ

細民は病弱

政府の施設

丙谷を

文化の

大盛興

大計畫

○日本開國の時を顧みて每々國難と戰慄を禁じ得ない。本邦開國を終了するに當り、外論國交の難問が起つて南面を困めたが、併し日本の國難を故ふに足らず外國であつたとも云へる。若し國際公法なるものが成立しうるならば、此外國は日本の國難に乘じて呑噬を逞ふしたであらう。知らずや國際公法の制も日本は果斷の手段を挿むと共に國が氣を制して、日本は果斷の手段で人の力を利用

因襲的に寺院の法のみ、暴を抑ふる道具であつたのは、さうが故に第四公法と日本の開国の事情は頗る煙滅してゐた、北の歴史などは興味のある且つ大切なことである。

日本で第四公法を学んだ最初の人は西周で文久年間和蘭留学生としたが、内閣後藤の説とし公法の書を丁寧に丁が漢訳したのが第四公法と題した支那と行はんとするも、先づ大限度が外交道で役する外交雖も直面して意見したのは北条を見もみたからである。日本は西周の第四公法を訳したのは人が廣原浩であつた。

[illegible]生三度が交道[illegible]とを

著はした。公法と云ふ文道とは第四公法とつゞいたのも一例見ひあるものゝ如く第四公法とつゞいたのは[illegible]

交道と書名を撰び[illegible]第四公法全書と云ふ[illegible]

ハ其名は定まつたが保し交渉第四公法の名を口

にするものが今でも少なくない。公法の研究の先覚は

第四者の河[illegible]、福沢が当外使節に随行し

此時、注命を或る公法学者と記したのを試みに

拘[illegible]ようとした、福沢は後公法研究の為め特

に洋行を[illegible]。

元来西洋は公法は耶蘇教国で無ければ行はん得まいとの

考へは、恰も赤十字法が耶蘇国のみ行はん得

このことは、これと同じ類である。萬國の二法を冠らせるのは、説明するのに便宜である。係し耶義教
四海皆兄弟。國際交通の全部交誼を指し、日本まこ
れが初めから新奇からん。此の名称を現象である。併
も初めて富士山を見た心得とみるべきである。少
数の学者のみならず、世生徒者流があった。多く
の場合に公法を国際倫理と心得、なんら意味を
なんとも市場の公文が少からずある。今とうてい笑い
草の種となるが、未だ斯る誤解が却って役立つこと
会も少なくない。第一維新政府を投げ、此通
中のまくらは、学者撰者家であったのは、これが倒幕
の初を奏した政府と市つ見ること、学者撰者家

びてきたりし。此の早変りを何と称したかと云
あと、如斯は萬國の公法と云ふことも萬國
公法を摘に取ったる五ケ條の御誓文は、日本の通用
を使う天地の公道と基くべしとあるのも、実に萬
國公法を土台としたるものである。
の公法は光明から活用された比ケ条であるから、生嚼
者は口癖のやうな萬國公法を云ひし。当時四の南
此場合は萬國善良の公法を以て可及非難なる
云ふもあるべし。長州征伐は幕府が国内比時なるも
所謂場合其国の兵力の右指を待つのは公法の命
まる事実。どい、これもまたことを云ふもあるが南
時は之を怪しむべきものなるべし。

当時の政治家の主義は公法を[illegible]国際倫理のことと解したから、公法の二字は威力があつた。外国人から公法に背きたくと云われると、一言も無つて使えがいろいろある。西郷隆盛が英国公使に徳川は大逆無道だと言ふから諸藩に位するといふのに対し、公使は万国公法に一国の政権を奪ふことを義務とするものを善良犯のことく諸藩を許さるべきものと説かるゝとかフンと云ふのも一例である。公法から言へば外国と中立ということを教いつたんの立場も都合のよいもあつた。外国の中立を待おしなべて公法を使ふことも出来る。当時中立を忘れて清を使ふことの出来たのは、横浜大島が五稜郭と協つたのと、政府側は交戦国と見

横原製

なかつた。別国は独立国と見て中立を宣したのは、常国は中立を宣戦布告した。高橋善作の弱年が日本の開国当時に記つたのは、独伊の軍艦を雇ひ日本は中立を宣したのは関係上生徒の公法の適用を誤つたりして、さんく外国からやられて実地の練習が出来たのである。

日本の外交練習は国難の体験から生じたのいろ〳〵清秋のやり損ひがあるけれども所謂る一頭は一智を生ずるで、割合に早く習熟した云へよう。伊藤博文の陰謀から薩摩と琉球が独立国と白いこと幕府側と無関係で先かけ出番をして外国と関着を起したが、幕府側で

コレ式のことすら治めることが出来ず、[illegible]衛に南つ
北向山城村を去ること[illegible]里ばかりの地点に蓄
府の兵力もあるにかゝわらず、只衛に南つ北支那の外
交を無策であつて、薩摩政府といふ政府の存
在さへ知解を無く得無つて為である。岩倉一行が
大使として派遣されたのは流石であるが
かゝる外交の形式に慣れず、條約改正に
関する委任状を持つて為の外国
和手のさへなく、伊藤博文を派遣する
為めなるべく内閣と皇室を別
とし北欧の外交は清国のパノラマと一理ず般
であるが、無味乾燥の北の二三の居住地

横原製

の業績外交拡張を手始として所領をこゝに
吸収しもとゝく　　三月廿三日記

○本復興繁盛のつき此時に乗じ市中の移転
を行て京橋紙屋町
冬至に牡丹餅を作る　　事紙あり、紙は[illegible]
の樹接樹を植へ[illegible]
年を経て七倍四の巨資を投じ[illegible]
九分の復興に成り[illegible]
る復興と[illegible]
興の完成は十年を
かと心中期する思ひ[illegible]
興繁昌[illegible]

さてと感歎を禁じ得無つた。それは休日である為め
人出の多かつたことも多かつたが、まづ吐夢の出品上らさ
る事もあつて内口座敷を埋るに足りない程であつた。
術中にもある様に、白木屋の廣大な宏
壮と物に変化を設けた陳列の仕様とが子タイ
を金沢氏武人として変つてあるのが目を惹いた。
の変化運動と標榜してあつた。
新市人の渇してゐるのは樹木の無いことである、今後
の復興には緑樹を植へる事、白木屋の思ひ付き
時宜を得て一番乗りであつたと思ふた。
紀生の彩色は新聞社主催の江戸文化展
があり、自分の不出品と後つけもあるから数

標原製

策の為に立寄つて見た博上寺浅草の寺の
不動尊と自分のものとが出品されてゐる
のは自分も出品した。志ろしえ及び今昔が一
枚宛出品した。浅草の寺らしく八百名
巨大の絵馬が多く出品されてゐた。
一覧を乞ひたい。天文年間の板絵馬三点が
納した立体の人形を新に置してあつた初
めて公開のものもあつた。博上寺
の時代時代の時代物の手細工品がずらく
陳列してゐた。流石に精巧の極である
と共に其の展示の天海僧正像記も

全部陳列されてゐるが、これも其内まの四賢の籍
に入るものなり、一位蓮華の上に羅漢の内五
七幅も出陳されてゐた。これは明の狩野
工人が木組をしてゐる間に羅漢を配したもの
である。火羅教授の意匠」もあつた。復興の
折柄(中)栗の間は興味あるやうな感じ一
位の嘉永頃の人であるから、極めて近世に属す
る、寺の建築ちゐを寄しに間ひあらうか、
考へもえない。自分の花台ちゐの附属する
ものへ、保し南竜の時代に馬鞍に其配
者の注意を惹きし滅度を伝しに出陳の
報知新聞の誇つた。自分は北馬鞍を左の

横原熟

たるいまゐ(四)いずれか二十年振りに
出して見て(四)飽きたるといふ。よびあることを氣が
ついた。写生人の題賛し北洋画の筆者は久
しく今ようやくが秋田ひ洋画ひ名高い
人なとことが知れ何れ間に毒しく録
まることろしして、ゐの大略を記す。三

月廿三日

秀忠紅時の鎧敷し鎧、僧上寺僧服、宋者
寺縁起絵巻、大言源平時代の巻物、巻
寺奉納の経、前文寛国の内に入るべきを
しかり

○安政の都復興祝祭第二日（陛下御巡覧の日也）

著い満七年前大地震の時のことを追懐まんば今而後修を完め幸いにて若し家い火災を免かれる一時い類焼の災怪を生ぜざる程に前面い使き、玄関より出入が出来ず、已むを得ず玄関を中心に左右両側を取崩すもの多し。壁を以て全部塗れば二年計りの間い紙を張るもの多し。度々廻りの補修に及ぶ其他の損害一通り迄ならざるも火災を免かれし為め家財一切なるべしとのうらき、其事等の家い高き仕合の部類に属し、而かも大震を経る家屋い材木を以つて四隅を支へ、屋瓦も左程急の修理を要せざるも、但し家財世帯道具の損害を要し、因て此れより二年間い罹災と住することを思ひ、終に全部の改築に着手し、四箇年に二度三文に命じ火災と失ひ、又と格別の打撃ありしも復興の為めに要し、資金は約二万五千円、北の姿を示す為めに愛宕の国旗金部を貴印する事に由義なくさるべし。世家の復興い如斯く間単にあるが火災を免かれるが為めに復興に花の如き美麗を感セさるべし也

此度明治の初年東京と地震の思い出を交換して端なく清尾の大震のことを顧んば。こんい関東大震と先より十数年前に出来たる岐阜

愛知県碧海郡の地震を聞くや、東京に戻れば地震
を見ることのこのごとし、当時自分は東京にあり
後度新潟の騒動を主宰したるに、駐屯せし地震
を感じて家族が心配せらるゝことを思ひ起す、其頃の宅は神田猿楽町の増山と
いふ華族の家を本人借り受けて居る時なれば
恒つて見れば、理学士数名引越し居るを見たるまゝ、家中の大なる損害なく
し居るを見たるまゝ、家族も別段無事なりし、夫迄のまゝを
く家族も別段無事なりし、夫迄のまゝを
少けば、激震の刹那表の傍に様側に立りて、
揺るも下へ振り落されんとも別と覚悟もなく
りといふ。其際知りの亡吹嬉男が池の端の釣

東京製

を楽んでありしが、あゝと驚きかけても平
気で居りしとか、自宅の前の池に揺り墜さる
ことも無りしと、東京に概して新る状態であつたが
浅草の市街は焼亡を極めた。酒井雅楽頭
の佐倉藩西洋館が名古屋の旅館を始め
て二階建も駐屯らんとしたるも陸上死の不幸を見た。
とゝのも此時であつた。
此地震の後数年後なる浅倉の金市
を駆けし一橋家があつた。其頃自分は牛込未
城下の名所町に住して、早大の回数を経験
したるに過ぎざるも、今度十時頃
に大震があるとの数度戒に、一時に金市に駆

かり妻家まで行方をたづねて来た。同者飯
ゐ男子が倒れくたばつて、飯ちゃんとひらせて来
た。其日夜分に外出してみたが、何事もなかつた
ぬ有様だ。出掛けも済まがやく、逃げ仕方をやつ
てみるのだ、自分も逃げ難の法を案じた。幸に隣地
ハ江戸川小学校があつてその廣庭が、竹垣を一重
を隔てての後園と接してゐるのだ。イザとなれば
其の校庭に避くべしと、あらかじめ竹垣を破り、地
上に敷くべき畳も用意をしたりまさかれぬ
も起きて待つて居るも行かず、満国の側らに
外套を買いて、寝に就いたが十時をきてもの
ねも無つたが、彼れかれく誤報の瞬息に伝いと

複原製

伝はらい。仏の為敬であつたのか、気の毒
だから敬を敬を敬したのが本心と試しやかに導をし
た宣伝といふこともあり彼れが如く卿言の考を
ることくだい真に恐るべきことである。電話が輸線
の如く伝つてゐる世の中で誤つた宣伝ほど危険
なものは無い。今日復興の五ひを試すと共に
こんな追懐を持つて清ゐる。

三月廿四日記

○連日の復興祭日で沸きかくる騒きで、じつとしてゐ
られず毎日の数業がしてくれ。市況を見物した。雪ある
巡視当日御巡幸後初めて
道に曲影しく業者の数らばつてゐるのを見た。
業莫迦の品えんで路傍に片附けられてある所

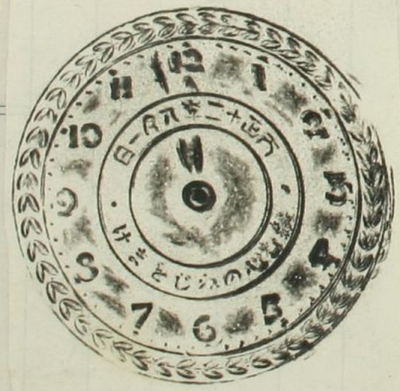
数ヶ所あつたを迎の盛粧者が前庭から電柱

してゐた其の出発する元とは
此紙屑や折詰のから
ゆるい片付けは
深夜

あの無つたが朝の動
きに数ヶ所の紙屑都
此といふをみる。先
通る通るのを見れば
十名計の人力車に乗
群衆の見とも巻き
囃方組合の仮装行列が
鳴らして通り、書割屋の宣伝として大きな書
冊形の山車が通り。大震災の時刻を針で
示す大時計の掛した山車が通り、平素
五寸の飲食店に入つて見ると、幸ひな腹掛一
つ二つ残つて居たが、十二時を報すると星山のか

見かけ入り込んで来て、踏られたのを待つことも出来ず
四〜五人飛び出した。時廿二日の後夜の式のある日が
珠玉大賑を極めさせ、上野に出かけたるもの、
電車道の両側に群衆を立てて寒かり、下電
車も自動車も通り切れの仕末、かの狂浅草通
まで行かんと思い立つたのが、山の下迄に八を立つ
し寒元寒しと危険もあるから人々も上野より
出を回らして仙台通に就いたが、大通りの神田に
るまで人波打つて立つるもの、メクラシ[illegible]を飛ばし
も出来ず群衆を押分けやつと八の集り
の跡なるものを見て上野に出でし。
此の宮城前に行かんとして式典の
[illegible]

立番の警官に勅使を願ひ日帝都の後興を
[illegible]ん今後の伸展と努力を望まれ
此の夜は群衆の熱狂極まることなし上野に於ては
三四十人の死傷を生ずるに至つた。地方でも此の
祭を見んとて出来たるもの、二十万人と注せん
全市二百万人の人出び開闢以来の盛況を
呈したり。
天皇陛下の紀
念に作つた
書鎮巻の
蓋の一部
ここに収む。

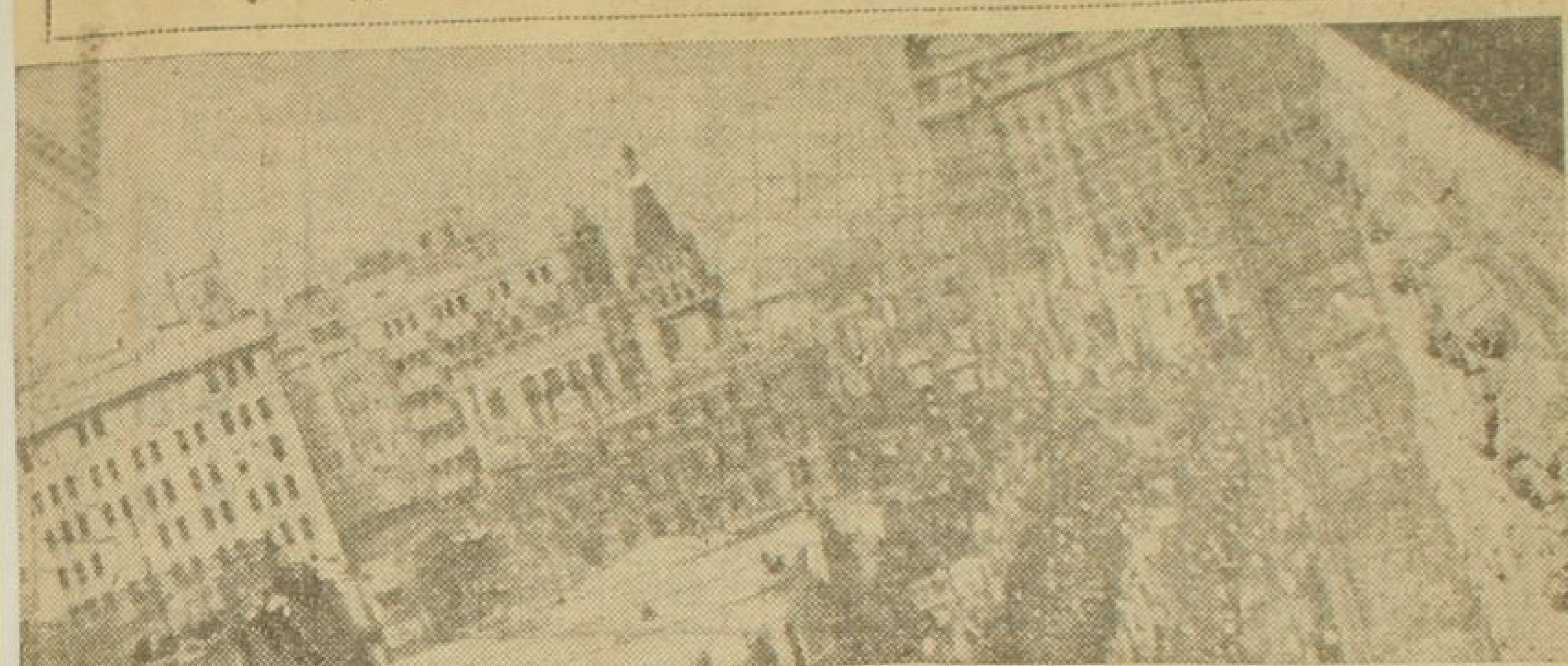


皇紀二千五百九十二年九月一日

○復興祭の市中見物ハ丈ニやけて更生するを
アラビヤのヒーニックスといふ孔雀ニ似たる鳥の
絵でもあるまいかと言葉を知る冒並店で遊
つて見ても　トント見当らない。僅かに目ニ觸れ
たのハ絵葉書の折鶴である。ふを祝する紙
金箔れ、七めては之れを目と、據って例の小品柄
れ見へ。然れ更生の寓意ハ無けれとも、千歳
の寿を保つとして目出度いことをそれてゐる。復
興の都市ー庶民ハ実祝を千歳先かれよと
之れを復興祭の記念ニ充つる。
同じ見物者も二種の胃つき扇子を得
たる　共ニ猶と狂句の鼓書也、一本ハ郵便局

公徳運動の大示威

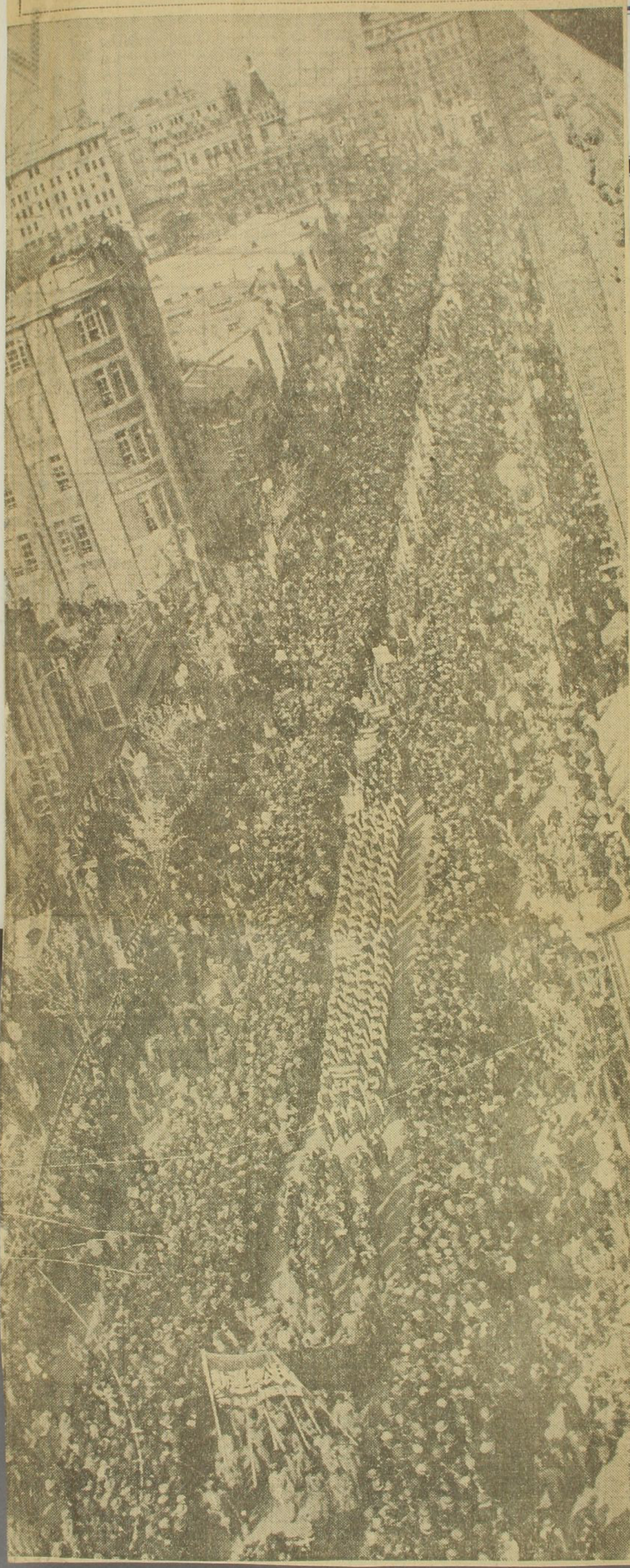
◇—銀座通を行進の盛観—◇



○復興祭の市中見物人こやけて更生するもの
アラビヤのローニウスといふ孔雀に似る鳥の
俗びもあるものとか言ふもあるが眉毛を
つけてゐるやうトントト見ゆるやうに、僅かに目に
ゆのへ紅朱の折鶴ひあるものを祝する紙
金箔れ、七もめでいふんを日と、博物の例の小品柄
いつてゐく。移れ更生の完表は無けれども、千家

公德運動の大示威

◇—銀座通を行進の盛觀—◇



内省録）事務を執る事の図を描き、他の一
は郵便函脚夫が、郵便物を肩にかけて道
中する所を描き共に彩色を施してあり、恐ら
くこれは郵便開始何年目の紀念を心掛ける
らしい。郵便局が既に洋風建築であり、配達
車また立派な設備をしておる所から案するに
郵便開始当時のものらしく、可なり年を経
てからと推測されるが、製作も鄭寧なる方
なるが、絵の紙の紐また附きたり桐箱に収め
あるところから案するに、或る外人へ贈るとの
ことの心掛けらしいとも想像せらる。紫水者は榛
原である。

○多紀蘭渓が新しく絵葉書二枚を一流した
その作者は元行船の社方を歴し、当日
繁しく活躍した事実を訓刺やく教訓や
ものを、可なり大部の著書に残してある。巻尾に
の子元簡の跋があるが、元簡に浮世さまざまの絵がある。巻尾に
歴代仏祖を掌に載せたる巻もこの巻もこれに
ひとある、教訓的の富嶽三十六景に陸奥の
航船を仕立てたのが心者の働であらう。但し元行
船のアイデヤはたるくらい子に喝くれ、日本にも珍
しいものの思想である。唯だ元行機が現に実
用に供されてある今日北斗を之を多のの具

味を[illegible]。

D複製[illegible]刊中[illegible]ものと寛永江戸圖が出来た。寛永の板本江戸圖は[illegible]らしいものである。一時の板本又は絵[illegible]が[illegible]が[illegible]刻したものが[illegible]すべき見るのも、板刻のあつたことを示すものである。何とかして稀覯[illegible]度代の刊しものアチラコチラに[illegible]があるが、安田所藏のものを[illegible]傷があつて、度代本は補つた所がある。[illegible]度代本つて、度と初めて完璧のものとなつた。京都

稀書複製會々報

第六期　昭和五年三月

第十七回

第六期 第十七回配布本

寛永江戸圖（原圖　安田文庫藏）

文政の昔、屋代弘賢が覆刻發行した寛永江戸繪圖は、果して原刻圖に據つたものであるか否かといふことが、從來學者間に多少疑惑の問題となつて居ました。ところ、昭和の御代に至つて原刻圖が現はれて來た爲めに、屋代の覆刻圖も亦根據のあつたものとわかりました。すなはち新古の兩圖を比較して見ますと、道路河川の位置、邸宅の所在など同一ですが惜いかな寫眞がまだ應用されない時代ですから、版下影寫の際文字の筆法が崩され、線も亦著るしく刀意が變つて寛永の時代味を失つて居ます。本會の今回の複製は忠實に原刻圖に準據し、特に彫刻に注意を拂はせ、彩色も原圖の通りに漏れなく施しました。原刻圖には虫喰ひが澤山あり、屋代の覆刻にも虫喰ひの痕跡を圖面に所々標示してありますが、幸ひに兩者が大概は別々の箇所である爲めに、複製の際對照して補塡の便宜を得ました。

原圖は二枚の紙を天地に繼ぎ合せたものですが、複製圖は圖面の喰ひ違ひを避ける爲めに一枚紙を用ひました。一つに續いた繪圖を一枚の紙面へ刷るには、一枚の版木でなければ刷れません。そこで六枚の櫻板を連接して四尺六寸に三尺二寸の大版木を作り、板の伸縮を十分試驗してから一旦それを解體し、取扱上の都合によつて六枚別々に彫刻し、またそれを接合して始めて大繪圖の大版木が出來ました。彫刻主任の大塚祐次氏から校ゝ刷を受取つたのは昨年春の事で、昨年秋の稀書展覽會にも陳列しておきましたのですが、適當な大判紙が中々獲られないで發行がだん〳〵おくれました。土佐產の大唐紙では寸法が足らず越前產の鳥の子では堅過ぎます。

特別抄造を注文するには需要數量が餘り少くて生産地の應諾が疑　であり、承諾しても高價につくので困り切つて居ました。年末近くに幸ひに今度の紙が見當りまして、すぐ印刷に取懸らせました。印刷も彩色も凝り家の阿部鍋五郎氏に一任しました。墨摺專門で今日生存して居る人は殆ど稀で、是れだけの大物を墨色のムラ無しに摺りこなす者は實際阿部氏只一人と申して過言ではありません。木版印刷の實狀を御承知の方々は如何に困難な仕事であるかを御推察下さることゝ存じます。今後永久に墨摺專門の手腕家が現出しようとは考へられませんので、原圖が二枚繼ぎであるにも係はらず、特に一枚紙を用ひた次第でございます。題簽の文字は三村竹清氏にお願ひし、表紙の色は林若樹氏のお指圖に從ひました。指定は緋色ですが、天氣不良續きで仕上げが如何かと憂慮します。(三月十二日)

複製本解說

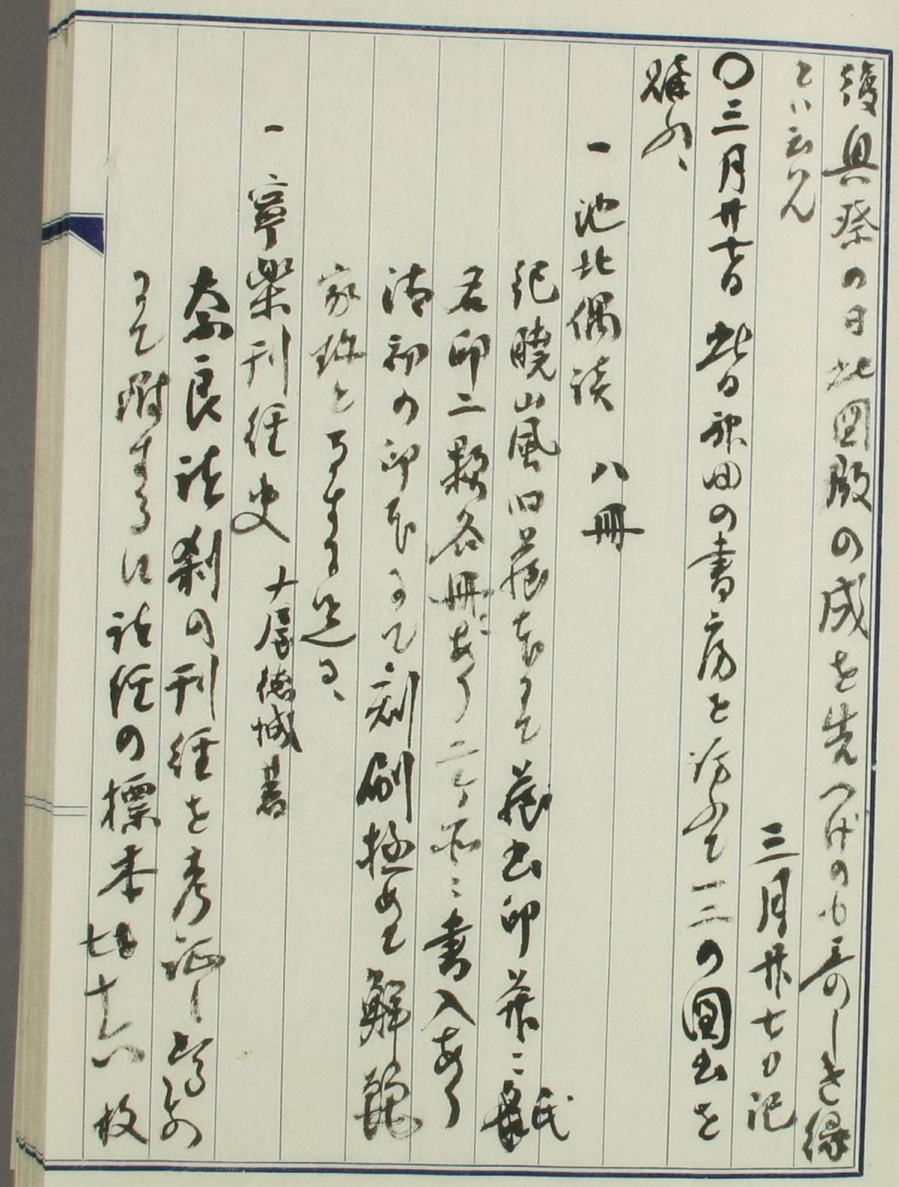
年玉日待噺　上中下一冊

(原本、若樹文庫藏)

本書は奥村文志政房の畫ける黑本なり。奥村屋の開版にして、刊年月は不明なれども、多分明和頃の刊行ならんか。外題は本文中に見えず、されど折目の柱に、丁毎に「年玉」の二字あり。而して表紙も中卷下卷の題簽も開版當時の儘と覺しきが殘存して『年玉日待噺』の書名を明記せり。上中下三卷にして總紙數十五丁、一卷卽ち五丁毎に奥村文志政房の署名あり。此たび底本としたる若樹文庫本は合綴され居れば、それに倣ひて一冊本として刊行し、題簽は中卷のを採用せり。

本書の節立は近き頃まで農家などに行はれたりし「お日待のお咄し」の體に擬したり。すなはち年中諸行事、種々の商品、種々の飲食物など各々の起原を略叙せる『本朝世事談』を黑本式に改作して各項に繪を挿みたるものにして、普通に黑本または青本などと稱する類とは稍や撰を異にせり。所謂素豆腐連に喜ばれし大人向きの玩具本なり。

江戸文化を紹介するに足る書籍も嚴格なる若しくは無味乾燥なるものは多けれども、おもしろをかしく平易簡明に、上中下に亘りて人情の推移、風俗の變遷を描寫せる類のものは至つて尠く僅かに低級な



を以て、書史の一録とするなり

一宣鐘彙報　元年二冊

仁和邵銳茗生の撰なり、宣德宣志不鑄の細義を考へ附するに類聚の拓本を以て、宣鐘の鑄造は邦人の雅しとする所、此書或は其の指錄に入と得んか、未だ熟覽の暇なし

三月朱書

書畫義次第なるも、作者類祖の書跡近刊一冊を集むるなり、類祖は寶生流宗家の稽古なり、類祖は寶生流宗家の稽古を書きし人なり、四之の名也

遺制概筆、其の名を弾ずるなり、書を解するに

つれを以て定次版の版下今も寶生家に所
と版を彫ることも絶えしなり、此書
く託て見るべし

日清印刷会社で標語を募つた中で出色を以
へるのは無駄を飛ばす標語で無駄は絶滅
とも言ふ白蟻」といふのである。金社は此の標語
の精神を貫徹せんとして日を定めて無駄探
しデーの日を選ぶことゝなつた。頗る良い
を得たことである。無駄はひとり物資を亂費
することゝいふのみ無い。無駄の人間を忘れ
無駄の時間を厨ふ。怠慢は時間を無駄
するのみならず六力をも無駄に仕ふことの
ある。従業時間に喧嘩口論の及ぼす所力
の浪費である時間の無駄なるのみである。如
何に工夫を凝らし精神の始終運

標原製

動せざるべからざる無駄が生ずる。無駄は金社
を去らして従業員の利得となるのみならず、無
駄は双方の為めにならぬものであることを心得
ねばならぬ。工業経済の極致は何人もあるかと
いふと、どこのつまらぬ無駄を省くといふ事
なのだ。工業上の秘訣といふものは外にあるのではなく、
凡平凡に学べる無駄、退治が秘訣であるのだ。
自分は学ぶを信ずの生命の生命が制表を
任ずるものの秘訣を学べ、此こと必ずある。その人は大会社
を任ずる人で、自分は誤つても誤まらず、養蚕四は
種々の経験家があつても、神傳外部からは秘訣
を有してゐるのは解せられないとのことである。実

いずれも不可思議のるびもなんびもなく、実は
活して見ると右に平凡のことばである、どこの青物屋
工業でも最重要な五十銭無駄をハジキ落かるだけのこ
とをやつてゐるうちに、其上四五銭を浮かせ何人も知ることと
いふと、無駄を省くといふことだ。何人も知ることと
工女は金を十銭と考へて、糸を惜き出して其の文
初の糸が不揃ひあるけれども、糸を棄て去るの例
とそうてゐる。六銭、糸をひき出して、さなぎが尺
へ遠くやうな落い膜が残ると、糸をえり棄て
るのも亦例とそうてゐる。こんい家庭でいはの棄
りい大したものでないが何百何千の工女を役する所で
ると、其の繰りと整理すると、弐十貫目

横京製

つも及ぶ、大器びちうて、之んを教育すること優れ
弐千円の金をうるのこんが無駄り利得を得る法
だ、放漫の金利いこん丈のを金を棄てる者の
いが、一分でも二分でも他の金利を
挙げるとそうるのは、此無駄を無駄とし
あるうと、勿論繭を買ひ集める時も之分の注
意を要する。價をやすく買う掛引も大切だが之
実し比注意を得ることが最も大切で、同じ一顆
の繭でも注意の大なる者と不注意の者
ると。世の秘傳などいふものは大体こんなもので注
意ひも注意するだけの。御り切つたことだが実
は大切なことである。工業の競争が極度と

進してゐる場合に一段地を拔かんとする時うん
此開墾さんに方面の開拓に意を注がねばならぬ
以上は勿論工業と就て云ふに印刷工業
に就ても同様である。低や鉛やインキなどの原料をよ
く選んで割あに購入することも大切だが、費用を節
することが最も肝腎である、動力の節約、燃火の
節約の如き他投資の盜難を防
くことなども半季の経済などの利得が
生ずるかと思ふと、意外に大量と上ることである、
況んや無用の従業者を一部し時宜や力の無駄
を省きこれを有効に利用する積極方面の
結果を積集することも莫大のものがある

標原製

ら。役人を割り出工業の視察とすることがこれを印刷工業
の視察とすべきなどの毎日に見受けるいろいろの
多くの場合要報告書も開部さる、形無形の
無駄がどれほどあるであろうか、一時の無駄は
零細であるが三百六十日の無駄は真に鉅額
に昇ぼる。白蟻のごとく或は金銭を山崩壊することも
もあるのである。産業界の会社化とか能率の増
進などいふことも実に無駄を省いて有利なる
ことである。機械に就ても云へば一刻も怠らぬ日のや
うに、人間に就ても云へば其の能力を無駄に費さず
大切なる面に集注せしむることが緊張といい
ふことがあり能力増進に大切であるかは、平生不

可能とされてゐる工程を一挙にやつてのけることがあるのも知らないものか。緊張の時間を即しして往々平生こ信ずるの結果を生ずるものである。自動車主とこいへもあるフォードが、日曜の休日の外に更に一日の休暇が人間に必要だと云ふのも、六日間働いて得べき仕事を五日でやらせ、それが動を奏したのも、日曜休暇を更に一日の休暇を與へたのも、是亮能率増進の故で、緊張の結果に到る実数のことを実現するものである。米国の工業家に示唆フォードが為す所と之を宝惜である。と冷笑した人々は、嘲笑して之を傚はんとしたもあるといふ。

印刷工業は、番数工業で注文の貴受入から初まつて、

標原製

製品の納付に終る。其間植字印刷製校正製本等の課目の手を経るのであるが、それがよく統一されてゐないと、行格を生じ、切角ある課で能力のことを曰く運んでも、他の課でさぐついたりしては徒労に帰すことゝなる。印刷工場も有機体であるから、人体の如く活機関が互ひに相輔けて円滑に働かなければならぬ。一の機関が張つても他の機関が弛んでゐてはならぬ。ほんの某課に属するから他の課に無関係所でなへと云ふ、そこに行格が生ずる。各機関が立毛の隙のないよう連絡が取れないとその連絡が乱れると、いくらかかつても終局切を一箇に欠くことゝなり不体裁が生ずる。折角

大なる注文に接しても、或は狼狽して気がコナシ切れず、多く任務をかけて結局草稿に終ることは仕事の順序が整はず、或は諸課に一致を缺くことがいつも原因となることである。例へば人体を多くの分析を試みて、気が消化されずに剤を記すと一般である。どうあつても有機的工業主義の心の一致が何らも大切である。自分は一歩進んで従業員の人格を高めたいと思ふ。どこの工場でも監督者が先づとされてゐるが、従業員の人格が高まると、監督者のヲツアーシーが無要となる。実の監督者のある時は従業員に親しみ侮辱をなさず、従業員自から己れを監督して考へさせる。

為すべきものを自制し、監督附の不名誉を笑ふものである。印刷の従業者は数ある智見の進入に よるべきであるから、一旦の自分の完成は直ちに未来無監督の域に達し得るのである。

(一) 營業方針

一、從來ノ實實ナル得意先ヲ嚴守スルハ勿論一層之レガ關係ヲ密接ナラシムルコト、

二、政黨關係ヲ利用シ此際諸官衙方面ノ仕事ニ喰込ムコト、

三、仕拂能力ヲ調査ノ上極力新得意先ヲ開拓スルコト、

四、定期刊行物殊ニ輪轉物ヲ物色スルコト、

即每月輪轉機ノ休止スル日時ヲ短縮センガ爲之レニフサワシキ仕事ハ相當ノ犧牲ヲ厭ハザルコト、

五、競爭上必要ト認メタル場合ハ「ダンピング」モ敢テ辭セザルコト、

六、如何ハシキ得意先ハ可成早ク見切ヲツケルコト、

七、印刷代金ハ每月必ズ締切日迄ニ精算シ請求書ヲ遲延セシメザルコト、

八、集金ハ嚴格ナラシメ一切會計課員ヲシテ取扱ハシムルコト、

九、營業部員ノ得意先擔當其宜敷ヲ得常ニ之ヲ鞭撻スルト共ニ適宜ノ奬勵法ヲ講ズルコト、

十、常ニ業界ノ情勢ニ注意シ隱レタル印刷物（所謂埋リ出シ物）ヲ物色スルト共ニ各方面ノ新タナル計畫ヲ前廣ニ探知シ先鞭ヲ付ケルコト、

（二）作業方針

一、幹部ハ可成頻繁ニ工場各部ヲ巡視シ現業員ヲ督勵スルコト、

二、特ニ係長級ノ教養ニ努ムルコト、

三、常ニ作業ノ連絡ヲ圓滑ナラシムルコト、

（イ）工務部ニテ仕事ノ受入ヲ統一シ緩急ヲ調節シ豫定ノ計畫ヲ立ツルコト、

（ロ）作業ノ進行ヲ注意シ常ニ其行程ヲ明瞭ナラシムルコト、

（ハ）發送係ヲ設ケ製品ノ發送納入其他トラック及得意先往復ノ使者ヲ指揮監督スルコト、

四、迅速、鮮明、正確ヲ作業ノ三大項目トナスコト、

五、優良ナル製品ヲ得ンガ爲常ニ技術ノ研究ヲ怠ラザルコト、

（三）節約方針

一、出勤退出ヲ取締リ勤務時間ヲ浪費セザルコト、

二、一時間以上ノ殘業又ハ臨時出勤ハ豫メ之ヲ部長ニ屆出シメ各自ノ任意タラシメザルコト、

三、人件費ヲ出來得ル限リ切詰メルコト、

（イ）人員ヲ整理シ適材適所タラシムルコト、

（ロ）當分新規採用ハ特ニ必要ト認ムル場外ノ外一切見合セノコト、

(ハ) 缺員ノ補充ハ可成社内ニテ人繰リノコト、

(ニ) 全從業員ニ亘リ老朽淘汰ヲ行フコト、

(ホ) 長期ノ病氣缺勤者及虚弱者ハ解雇スルコト、但シ此ノ場合ハ一時的ニ相當ノ慰藉法ヲ講ズルコト、

四、消耗品ヲ徹底的ニ節約スルコト、

(イ) 動力、電燈、瓦斯代ノ節約

(ロ) 車馬費、通信費（特ニ電話料）ノ節約

(ハ) 諸原料ノ値下ゲ購入

(ニ) 廢物利用

(ホ) 消耗品及取替品ノ受渡ヲ嚴格ニスルコト

(ヘ) 無駄ナシ週間ノ實行

第一日　無駄探シデー　ポスター標語ノ投票
無駄ニ關スル講演

第二日　清掃デー　無駄、實物、統計展示

第三日　整頓デー　同

第四日　時間勵行デー　同

第五日　節約デー　同

第六日　不良品ナシデー　無駄探シデーニ對スル
個人又ハ各得賞發表

○日支の初年今の博物館と称さんし呉程を
参考とすべきあるを時々刊行し居る中に歴史中の人
物肖像を考據ふべき諸家の手蹟の原書に就模
写しなる紙を数大に作刷し居ることあり。今の孫らし
きことなりて容易に手に入る難しかれ此頃偶々差年

紙を獲た。余は之を閲するに、人物は必ずしも二版あり、蜷川親胤が模写して宮に献じたることと、更に山名貫義が之を模写したることとあるとに、共に木曲板に彫刻したる、蜷川の写しは必ずしも新生とは云ひ難き年月記してあり、何故に二版あるか今遽かに考へ難きも、人の模写は西番頭図に酷似せざるが如く、蜷川の写は酷似せざるが如く、山名の写は細かに悪さんあり、さして蜷川の写しは右原図と刻してあるを以つて見れば、新しく比較せしむる相向である故に、則ち一冊のものの如くに比べ、後は役目比照の便あるやうにした。往年博物館に如斯写手があるに

標原製

従人物の書像を写し十枚ばかりつゝ刊行して世欲を無くすることあり、余も之の巻を繰りて多の模助を無くすることあるしが、十輯ばかりも出してこれを見て、今十年余の鶏助雑墓を収めらるゝは、武芸以上の神采の躍如たるを学ぶ武技を刊行せんしかば、二十人物四十枚の写きめ

三月朱八の池

○議会政治を信配して愚人が、欲念を評して悪人が寄り集まりて善人の為めに法律を定むと云ふ。めつたに氣板る評いもある。日本国の現今も今一歩退くこと

批評が當ることゝなる

○ハンガリーと伊太利とは四人の孤児、其の前方の公園に紀念碑が建つてゐる、其の四隅の紀念碑にも亦たゝへもこの孤児、何人と刻してあるかといふと條約に永久のものであるとあり、惡人を形どる四人の像があつて、女子を歐打してゐる間から侵略さんと欲する間の世界の大敵と四隅から侵略さんと欲する半ば以上を失つた。條約に永久のものであるずと云ふ所以である。四人の惡漢に則ち侵略の四國を象徴するものである。

○外國人が日本に來てゐるいと言ふことは、日本に

標原製

日本人のあのはるばる海の國に渡り、馬鹿らしいことをやつてゐるが、實に日本人が異民族の交つてゐる所の世界中の異人種民族を圖つても色合をとつたものは、世界の諸國の人種の寄せ集である。現在國王を戴いてゐるが、異民族が多い所から、國王を挙げようとしても異論が沸騰してどの民族でも同意するやうな人物が無いので困つてゐるやうに、そこへ行くと日本は一系の天子を戴いてゐるので、少しも面倒がなく、日本の有難味は外國へ行つて振り回つて見ると初めてもうなづくことが出来る。

○一将功成の万骨枯ということが、実は戦功は無名戦士が犠牲となる結果であるから、世界大戦後文武両道の必要を無名戦士の墓を詣み、敬虔の念を深くしてゐる。誠に自然の事である。換言スタリヤの維納の無名戦士の墓のはめのことが刻まれてあると外国のある人が言ふた。日露の戦争は二度と再び真平御免と言ふ意味のことを思ふ。無数戦士が悲惨な犠牲となったことを思へば、戦争は真平御免（おれも）ものけんぞ日本あたりの考からすると、なんなことを刻まるのは士気を鼓舞する所以であるまいやうな思ふる。志かし維納は共産主義の本拠視してある

標原製

から、其の主義をいふ。南でもあるのだ。

○ソヴエット露西亜は宗教を始めて宗教の所の如きことをなしたと言ふてゐる。現ロシヤは反宗教運動を盛んとなしつゝある。現ロシヤは反宗教運動といふ所あつて、支僧の遺骸を堀り出したりなどしたが陳列されたりなどしたことをいふと、支僧は死しても其の屍体は腐敗せぬということを証する為めだといふ。共産主義も初めは寺院をどしく破壊したが、信者は擁護し乞、義に反抗するのも共産主義も手を収めて事実信教の自由をうたふるそうだ、共産主義と宗教も死すべき墓下に埋めねばならぬ、その墓を掘

と云ひ人の話しに、墓の形式は敢て奇異と異つて居
る唯墓石に十字架を刻する代りに星が
刻してあるといふ。星は何を表徴するものか
知らんが、巻頭人は兎のまゝ十字架を墓石に
樹てゝ了つたのに、墓の巻人があつて墓前の敢
葬つてゐるそうな。露西亞の人心は十字架が無く
たい死者の霊魂が浴べるものと考へるらしいと
云ふのが無理もないことである。共産党と異る
流行無宗教党は、海むまい、美こ抜ける
る新宗教は必ずや起るであらう。
○露西亞へ渡んでいつて来た人の話しに、ある
ステーションに着すると、そこに一匹の馬

車があつて、張者が居眠りをしてゐる。馬は
とろとろとうとうと睡もうとする。そこへ豚
がやつて来た。馬の四足の間を潜つて通り抜け
た。通り抜ける時まで馬の豚は鼾んだ。
馬は平然と睡つてゐた。すると馬の豚は鼾んだ。
ハつてゐる。そこで五六羽の雀が馬の糞を見て
揺き散らした餌を漁つてゐる。浮山に人がゐる
の、雀を追ふのもあるが。北の光景がスラヴ人
を表徴する事はやうな思はれた。日本人は神様
祭りから、雀が跳上り居んは思ふて追ひ散らす
あるまい。スラヴの天地は雀は日本の社寺の
のごとく悠々たるこの地の豚が豚と鼾んでも眼

をさまさるい馬も（無）スウ的でもある、鈍重な国民性がところ〻小説〻も現はれてゐる。角取とゝ〻。

○どこの国でも国民性いろ〻の注意を拂へば、一寸とゝ〻現はれてゐることゝ氣がつく、（獨逸）は細係の国と云はれるほど首都まで細係が多い、これが何を意味するかと云へば、英雄崇拝が国民性であることの一端を語るものであらう。この西洋流の話しも獨逸で日本の墓をよくする人があつて、さんざん苦労した。先ず四国四道かもれ、自分の頭けれと云あれが一回の苦労と二時間を費し、それから、獨乙人は熱心と熱意する、一石を下さん馬鹿に三時間をかゝるが、一旦石を下せば、決してそれを改めるやう

あることゝ思ふ。そこで獨乙の国民性がそのまゝやうな思はれたと語つた。

○家康と白川宗家の書を刻した板額一面あり、「梁其樂園」の四字を撰ぶ、蓋し信州飯田の城主堀田侯の別墅に掲げたるもの也、侯の別墅豊後郡高田にあるし、余が義父の莊まで間近にある故を以つて、北額を入手して掲げしことあり、額を得て数年の後、此の園の記を坊間に得て如何も園の梗概を知ることを得たり、園記に北額に添へて保存すべかりしに誤つて焚却したるが、偶〻我の活印刷会社東京市の嘱に依り市史中報（無）園誌を刊す、中を

検するに国記全篇収の事、疑ふ可き大略を探
す、北国を任ずるいらいは天保八年丁酉四月より
領田侯八市時幕府の若年寄堀氏に大
和守名を親密と云ふ。国地のもと他人の所有
ここに尾し久しく荒廃に帰し、一朝を林述斎
七侯に勧めて婚ハしめ此ることの乃ち国の起源也
国の任ずるに武許の幕府を奉ずるやを知らさん
も三千戸勝を数ふるもの勝地なり、果然
の名も聚谷述斎の撰ぶ所なり安積良斎の
国記に弱る長文なるも風致を詳悉す、果然
分掌を隔て演説するも敢て寸記中
まず、国名の乃ち采邑の命する所となる校

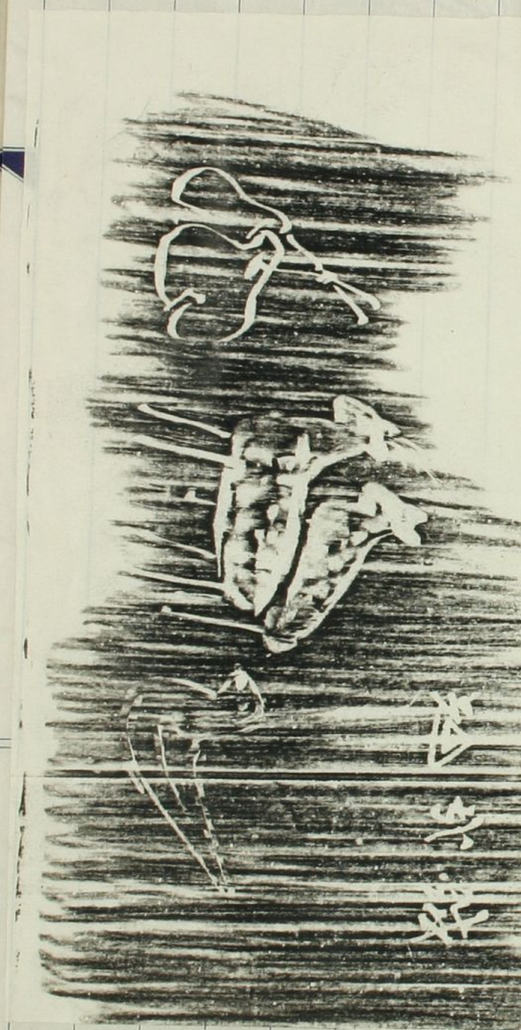
殺の背面に振田養の儒医某の数行の漢文
を刻してあり、蓋し由来は国記云々する所と異
なるなり、而して北国址は果して高田の何の
あるや、今は地境変して容易に解し難し、古図
に就て他の之れを検ずんことを期す　三月三
十日録

○坊間史談茗話を得て動後す、往来往々北方の
字を見るも、而して此の色寛文八年京都に発行し
たる刻本也、余此書を後す速断して武府史談の
雅録とするも、史談舊話を宮本家蔵のものとん
ぞ武府史談の任廉を探し、とんを日雑
録に記し、当時の史談茗話と混同す可からざること

を記しそうろう、茶流を漢の元府史録のごとくそうろう、
今寛文時茶流を漢もるる林家の心也、史録に即ち
幕府本朝通鑑を編纂まる時の録を作し、林
家父子これを撰かる、稿図終史の録毎上代詩
人の才華を据摘し毎の評を作し、四十二件
を編し父に先立て死す、父其志を悲み、重録
五十八件を補ふて百とす、乃ち此者なる、実に
一部の詩話也、
○狩野氏代々の名工也、彫刻に大あり其他人に孫
章もそうろう、夏雄の如き若重の名を聞きそうろう、町彫
の雄なるは肖かず、舎北人に交り無かりし
ゆえ北人の力多きゆえ、二三の心易く、何のも一時の印

複原製

異に成るこのうえ精心なるあるべきもの二其技の一端
を見るを得べし、左の如き木彫の一端
の掛額なり、其次に仏像を木彫
彩つるうえ把手を作り杉板もて基を作る用
途に書を刻す、基金の景形のごとき三十を
作りなる一と称するに高さ
さ三寸、横二寸程の長方角の盆
の中に観音像を浅く彫り、白の丸地絵具を
填めなるこの也、皆彫心と見るべきものなり
毎の板なり、然れども常に画為を感ず、此の
偶と坊間に彼れが拙しく作少を得たり田楽
の面を抱き合ハセる形なりなるこのうえ金箔さんあ



（こぶし）ども別段の味を富し、二面を極めて精刻、清雅味の
兼ね備はる趣味、言ふ迄も無き所に田舎
風の本色を失はざる、心者の手腕を見て、面白
き者の為欲を謝せしむ、心者四方名の具に相を附す
余が所蔵陶列棚に八百個の小盤あり、結局一
も無駄べ、之れを比較（以下欠）

（日記）

○南紀の醤油屋村徳太郎山陽国縁の骨董三十
個盤を有すること、ならば、余の
宝玉を微一の関係しなれども実物未だ
見ず、先決所望なれども一箱を寄せ特に余の私
書を添へ方を以て、微々、余先般一点つゝ或花

（西盤）

（原製）

瓶を贈りたる国縁もあり、然し骨董物は流しなる
物と云ふ事を以て十八ケ所の小盤を見る事
能はず、国宝の盤数三十八盤の多きこと
なり、さて、一番と陶列も玩賞し得るは喜ぶ
の仕合なり、彩る様、今迄得難きものなれば陶
別の折、玩味し、交を含まる也一集を以て余
が友人中、骨董を理解する人と
無れば、彩る得ざる人なれば、一人として
するに外なるも、惜しきかな、冬其の逆
に外なる輝直もすべきや、其を見ずして
ハ考も深心ず、北斎の黄表紙の後
三倍のことを思へば、粗忽成り難し、先ず

山陽翁遺物送り状目録

小包番号	内容品目録	点数
一号	木米作急須一個	一点
二号	木米作茶碗一個、茶器入硯筐一個	二点
三号	菓子重又皆一組、箸一対、茶盆一枚	三点
四号	茶盆二個、蕎盆一個	三点
五号	筆筐一個、木硯一個	二点
六号	硯花生外筐老個（秋圭花瓶筐）	一点
七号	巾器一、如意一、挿子一、短冊一	四点

（六号秋圭花瓶ハ廣島送物展覧送中破損ノ多シ 送付見合多シ）

昭和　年　月　日

No. 2

八号	硯屏一、墨台一、筆架一、笛贈硯筐一	四点
九号	竹製香爐一、硯箱入一、錫丁子一対	三点
	（注）九号中ニ今ハ錫丁子ハ異家所公ヘ賜ヒ所未書ノ成作品ニテ賜ヒ未書ハ寄稿大度ゼイ弱送付見合ヒ中ニ、直幅ヲ只山陽翁彫刻ノ子犬ヲ送付ス 送付使ハ	
十号	番筒一、玉杯子一、竹筆立二個、竹茶入一	五点
十一号	竹菓子盆五枚、竹花生一個、茶托五枚	三点
十二号	香盆一枚	一点
十三号	硯箱及戸四枚	一点
十四号	印籠一個、竹硯一個	二点
	十四号中ノ印籠及竹硯ノ二点ハ中生ノ義弟下村ノ所持品ニテ、生ヒ西家ヨリ同時ニ入手ヒ物ニテ今回幸ノ折柄拝覧ニ供シ而箱書 勢上度ク	
十五号	硯扇面額一枚	一点
十六号	印箱一個（之ハ手提箱ハ何ニ使用セルモノカ不明ナレトモ内部ノ跡アリ）	一点

昭和　年　月　日

No. 3、

昭和五年三月二十七日

十七号　山陽自刀拓拓拓拓　一本、

（十七号ハ小包便ニ適セズ多幸便ニ托シ東京深川在中生義弟
勝太家ニ送ラル之ヲ尊告ハ直送仕ル筈ニ御座候）

以上

小包点数　拓六個

内訳点数　参拓七点

外ニ　老点　東京深川橋本ヨリ直送拓　一点ヨリ

点数計　参拓八点

十六個の小包の一時に多家に到着し来ることい為
快の感ありきを得るの未着なる旨の伝書を
見て所望を得し兼ねを思ひ存ます（四月一日）
○広東花南方ヨリ千に思ひくの表直を施し
南方の名や南探ねを回し宣徳用こまることが行
ハれてある、方先に浮山マッチを試ることの出
しおきを紙手を元りたくしある事もあり或
ハ術頭に世ハ供を三ヶ月を行人にマッチを無くる
ものあるかこれの喫煙家ヨリ油法ヒ自分ヨリ
宣徳ヒラ〇ハ真平ん（時）（けも面）るが、マッチは喜
んで貰ひて　ホッケリトを入れるどこの飯食者でも
えくの工風のものが多る　格お褒めにいるもの

るのいろへ、支那料理の海鼠の形を作ったものが一寸氣が利いてゐる。絵
どもさまざまに工夫されてあるが、南瓜の花を変るのが
宝恵おかめ。○俳句は工夫がムツかしい、風月堂のマッチ
アッサリ
と来ぬ
ひとつとして生びあつたのは
ぬ五十三
次を絵
世絵の
いい時の
絵を吸

の之一部ともなる地の駒と移るが、これも目先を更へる
一法で、ペーパの芸術家たちの身の丈の変更を待
つことであらう。追々紙代にマッチを焚いすることも
行はれつあるこんなもいろくのがあるが、将棋
も妙味とする人の夢のようと云ふ風に成るまで、こゝに
結りつけれやうなのがある。駒を切抜かせて字を用ひ
さてる考あまり、花やかなものの無師を破るまいとの
なお知れんが駒の全体を描くことを多くのマッチを不
おしいがあることい便利とは思くあつ大家の例を挙
することの研究と決定するもあらう、先くこれが
研究の思ひつきであらう。
○広利の書画骨董於徳と奥田抱生の詩渋が

載つてゐる。奥田は名古屋の人であるが、名古屋出身の森春濤を紹介の言葉として、いろ〳〵書いてゐる。春濤の篆刻をやつたことは、篆刻の技を学つて身を立んとして奥田の主人に非を説かんことを望むとあり、又出来上つた篆刻に出来上つた時、成家冊其、三四の諸生中より又此ことがある、風貌は略傳奥田の言ふが如くである。

の力である。之より以前に、其先驅者となつて現はれたのは、祇園南海で、清人の詩を消化して、一道の光明を與へた、第一人者である。

幕府時代の詩人の著を見ると、其詩風が直に分かるから一々之を論じない。然し星翁の衣鉢をついで、之に加味するに香奩の一體を以てし、而して詩道を一變せしめたは、森春濤である。此人は名古屋在一の宮の漢法醫で、初め私の王父桐園先生に從つて學んだのである。其頃は重に篆刻をやつて、王父や先人の石印中に澤山其刻印がある。

或る時王父の許へ、春濤がこれから各地へ遊歷するからとて、暇乞に來た。其時王父が何の技を以て遊歷するのであるかと問ふたら、彼は篆刻を以て遊ぶ事を述べた。王父が夫れを聞いて、夫は餘りよい事と思はぬ、篆刻師は時としは、文人の下足を揃へなくてならぬ、何故に詩を以て遊ばぬかと言はれた。夫故春濤は詩を以て京に遊び河野秀野抔云ふ人々と共に、星翁に從ひ、終に詩人の名を成したものであると、其時左右に侍して此問答の終始をきいてゐた先人の話である。

春濤に對するは枕山、湖山である。枕山は御徒町の所謂茉莉巷凹處、即ち森春濤の摩利支天横丁から名付けた。茉莉詩店凹處(路次)に近い所で、長屋門の小さい古ぼけた家に住んでゐた。童顔鶴髪の背の高い太つた人で、俗に云ふヨイ〳〵、即ちアルコホール中毒の人で、常に蕃椒を口にしてゐた、隨て言語も明晰ならぬところがあつた。

小野湖山は立派な骨格の持主で、自分には、詩人と思つてゐない、儒者の氣持の人で、豪傑風があつた。或る席上で、一書生は翁に對し、先生には曾て某所にて、謁せし事あり云々と言ふたら、翁はナドヽ云ふて、拙者に何か書かせるのだらうが其手には乘らぬぞと言ふた事がある。之を見ても、其人となりが分かる。九十に近い年まで、堂々と其名を保持した人である。

春濤は、關根痴堂の痩軀鶴の如く、野口松陽の白皙なるに對し、奇醜にして、顴骨高く、顔は痘痕深く、赭顔で、鬚髯の長く垂れた人で、維新の際には丹羽花南、田中夢山抔が浦山しくなつて、少屬になつて、江戸へ往復抔した。其時に函關を越ゆる有名な詩も出來たのである、一體詩才は有つても、吏才には缺けてゐた。讎首の手紙を自分で先方へ持つていつた話は有名な話である。

丹羽花南の愛妾が死んだ時、之を哭して、聲涙共に下つたので、同僚の數江某と云ふ癇癖の酒徒が夫れを怒つて、割下水の泥中へ突き墮とした事があつた。其後斷念して、詩人に戻つたのである。息子の槐南も、矢張官途に流連した人で、私も曾て長い手紙を彼に送つて、官をやめさせようとした事があつた。

春濤門下では、神波卽山が第一である。詩も渾厚なる所があつて、臺閣の體を具へてゐた。夫れから永坂石埭は、元と先君の門人で、詩を春濤に學んだもので、彼の書風は、名古屋藩の聘に應じて來た、金嘉穗の書を學んで、甘くゆかずに化けたもので、書畫共頗る俗なものであつたが、中々迎送の術が上手な上に御馳走政策で、あれだけの盛名を博したものである。

○世の中に杖道といふものがあり、何でも芭蕉を道楽としてゐる。
とする人があるが、杖道でも芭蕉を道楽としてゐる。
杖を持つ時の孫五郎を求めることを為やしてゐる。
杖をの杖で心の杖、谷四、谷地の杖で心つとに杖
杖の記念となる杖、若宮家の手洗の杖、握りに
京五のある杖、そでさまくあつて、とても一つ茶は
る得すいあかの杖も実に一種の骨董である。
少なくとも杖の芭蕉を味はしてゐる人が杖を
見ることは骨董の杖ひ如何を知らんを実用
みるの日的でなく。実際に杖を愛玩すること
も骨董を愛玩するのと其の様を一ようするよ
い杖と云ふと種のよい骨董と其の條件

標原制

を問ふてある。杖を愛玩する人は主力を握りの
買ふ人がある。或は金銀象牙玉など沢さまくの彫刻
のある握り、それが精巧であれば他の部分は
どうでもよいやうな思つてゐる人もあるが、それは骨
董こそ杖の本体を細稱の人だと云ふ。
ふ人がある。握りを偏愛の人は杖
のことのみ、それをつけんがとする
飾りかましいものを杖の上端に持ちあつてもこれをつけ
を換するのが既におもしろくない。骨董そのものを
董のある握りの董の丈を同作のものをつけんべな
らあるが、握りをつぐことは他作の董を用ひるやう
なものだ、それで片輪とさうすると一般である。杖の美

八法しも撞木の美を尽すべきなり。故に一物一体を撞木
す一本の杖の上頭を板味あるを撞木を必ずの法
もあしくなるべかり附けよの器
薬の極致の高雅をもとなし、杖を指すも杖
あるべし、杖の用を必要の條件の真直なるべ
んべきなり、堅牢なるべんべきなり、なるべ
く軽くなるべんべきなり、太さは上頭なるを下部を
細くなるべきなり。撞木は必ず
ずしも屈曲を要しなるべし、屈曲を要す
る撞木は杖が屈曲性を帯ぶるものなるべんべ
らず、杖はさまざまで行るものなるべ
きなり。自然最高の條件。

標原製

倚るものがあれば杖とも称すべきもよい。人
工が加へんが加へるもおもしろく無い。日本の杖
が頗る多種あって、一郎の杖
として用ひられもするが、自然杖
ることも出来、前に掲げた條件をすべて備へて
みるのは、天然のものなるべし杖と言ひたいものである
つて、西洋人のこれを真に
は等し等身以上の
ならさげて珍とする。今時形の佳日を霜雪を
の杖を用へてみるべきが、西王寺公園に等身
撞鹿らしくもおかしい。赤駒馬に使用する鞭
もまた佳日を用いるがこれは比日を衝くべきと自か

ら異つてゐる。支那の軽薄な杖は日本の鞭のごとく細いものであるが、有業者の体軀のごとく太く持つてゐるのは、杖の本質を具備してゐるものである。西洋杖の形は、なんといつてもステッキである。西洋語をもつて形容するならば、外面は味のあるものとして大いなる形をもつてゐるが、全体は堂々たる四角の格好の箱の件が外面を支配する部分の雅趣を保ちながら、且つ強力を保ちながらも、大なる強力を有する。件の箱の中の紋を印した斑件といふものを思ひ出す。件の箱の中の紋を印した斑件といふものを思ひ出す。件の箱の中の紋を印した斑件といふものを思ひ出す

其藤の一人毎に一節毎に細くうすくみるが美しく刺ひが加工しても節を除くから無節のものと見る。丸の籐の肌が滑かで珍珠の如き貌をみせ、斑点のあるものがある。その斑は人工で心ゝるものあるが自然の斑点の多くの斑のあるものは最も賞賛され隆つて價も高い。樫や竹樹等も代用されるが別産籐の及ばぬ。

籐の特徴を述べ味をみてから販売十数年を経てみる。いつも籐ふのはスコットランドのアラシ、こんな産出量と一節がある。けれども自然の使ひ新しくもある自然堅牢で

標原製

もあり持ち込むと一種の色澤を発して趣味を生ずる。志かし五年七年拾八人で造り中ごろ毎夏き変色するこがあつて何ともいはれず感じ、旅のうの駄杖を特に造人で杖の毎年ことにしてみる。いつもやも自動車で衝き高つと大切な杖を折つて八今高女の残骸を保存してみる。毎の保付の印であるから杖は多く價を拂ふ高貴にして美で出来の竹籐の杖を婚礼無一郎有斑の産品である之れを婚礼に就て價を納めて見たが日本の高價のものを変れなくとも六十円七十円位のものが

いくらか来てみる。自分のいま最上ひいきのが、最上の
との おもい 者ら 班々あつて、まだ ちさい ところも
いる。

四月二の記

○幕末の外交に高橋の御殿山が可なり工合入つた関
係がある。品川の其砲台を築く時などこの
土を運んだかといふと、御殿山はかなり
角を出掘られたのだ、但し御殿山はかなり
いろく自然の青葉茂つた山を山崩して其土を
用へたのである。実を云へば御殿山は其場合の番
号の地である。あをこへ砲台を築けば天然の要
形勢を得たるものである。この要害の地を外国公
使から公使館建設の地としても望まれ幕府も拒み

標原製

者が出かゝる時幕府のいろ〳〵の反対の説を主張
するものもあつたが、あの地は徳川家と由緒のある所だから
御秀さうなものだ。勿体ないとかことき守舊説
と要害とを欲する説とかあつた。第二の日反対論者はどうしても
あの地を各国公使館を設けることが止むを
えぬ、有事の時に危ないから和南の道をひら
き他と連絡を保ちたいとかいろ〳〵と憂慮したが
列頭先生等の議論を聞印して公使館を建る
ことゝなつた。先は文久二年の事である。然るに英国公
使館の建築が先づ成り、仏公使館の建築中、一橋
事が起つて、乃ち出来たばかりの英公使館が焼打に

過つて一艘の内を灰燼とするに比し、まづ英の公使并に
随員がまづこゝを移すつもりなるうつかから、仕合せなる比
が、義し移動後であつたから、或は修羅場となるに比し
如何ばかりか、公法上あるまじき外国公使館
を故意に焼拂ふなどは実に野蛮極まる所為で
今追憶しても戦慄を禁じ得ない当時の記録
をあまりません、續武江年表文久二年正月の條に
品川御殿山に異国人の旅館を建つことあるを、同文久
二年十二月十三日の條に
品川御殿山異国人の旅館浪士集つて夜中
砲を放つて焼却す、五ヶ国の内英吉利の
公使館なり、一時の烟となりぬ

とある。

尚ほ十年史にくわしくこれを書いてある

十二月二日、盜品川御殿山の英国公使館を
焼く

十二月十二日の夜品川御殿山に御殿を建て
り外国公使館に内英吉利の先頭成
あるを未だ引移らざる前に何者か
夜に乗じて火を放つ、俄に火燼となる、俄国館の
後書物なども未だ建中なりしが是の残
んり

但一時に出火せし体火薬の爆発する音も
聞きたり、いかなる列国燃出、素なども全焼

又火氣もなきを富也殊に火勢しるるよ
者と為駈付ける頃、柵外に砲撃四五
発響き、六七人も人形見へしも、其後の
騒にヤーケル砲一挺、鉄一挺、下駄、半足
袋あり、外国の木柵
四五本横木を切り放ち押入りとる
体を成居る由、是なる浪人体の者
二人公使館門に来り、薩州の藩士なる
立入れ論をなし、しばらくして門番に中
なれば、番人断り差止るを拒て殺す
しと云ふも不殺さるに共入れかねきの者
へなれば、即時に殺害して立去りしあ

横原製

續武江年表池田氏の所と三十年史記載の日と一日
の相違あり何れか是なるを知されど、三十年史
録する所に拠りしと当夜の狀況を詳り、始め
の文の義に有るなれば浪士の面目を現はすもよ
ろしべし、当時外交の困難繼続の折柄、亦此の
様なる事、幕末有司が如何に困惑一方なりしか
なるを推察あり、後年岩倉大使一行が欧洲
巡遊の公使館に於ては概略伝聞せしなれ共其の知模糊なる狀
況、且つ是が町家と交つるを実況を
し、外人が御屋敷を不卯に囲ひしを今更ら
笑んとも笑捧腹が倒くらんとを。

四月二日

時偶ゝ杖を得て、聊か杖に就て書いて見たが左の
都新聞に近頃洋杖の記事があり、参照の
為めここに収めおく

四月三日

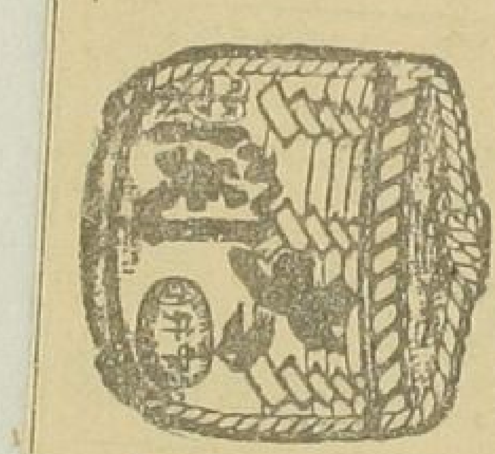
○日本散策中「三十六峯山陽外史（遺墨）」と
呉門沈荇香の題識ある一帖を獲て、余山房
に閑する同杏を多く加えぬ、これへ初めて見る杏の
ものなり、嘉永二年七十二翁亀齢軒の上梓

（[illegible]のアツシユです）
五、四、[illegible]
[illegible]自然木のフヂツル、籐、スネークウッド
[illegible]加工木

位まで、スネークウッドが二十五
圓位から六十五圓位までゞありま
すが、一體に近頃のステッキは實
用といふよりもある意味で服飾化
して來たと云へませう、ステッキ
を手にして歩く人はあまり

若い人

だちではなく卅歳
前後から四十歳以下の人々が一番
多く用ひられてゐますが、年で比較
して見ますと二十五歳以上と三十五歳以下が七
分、二十五歳以下（青年）の側に迎へ
られて[illegible]



鍍金は

ありません、しかし細來の金張り物は最近非常に鍍金の技術が進んでゐますので容易にはげない、そこで鍍金物が多くなつたと思はれます、値段はアツシユで一圓前後から四圓五十錢位まで、十五圓から三十五圓[illegible]
大抵鍍金即ち金張りもので、和製は十八金とか二十金の本物を用ひて
銀であります、金張も細來ものは
ッドの場合で、他は殆ど金若くは
すが、それは主としてスネークウ
も云つた様に皮細のものもありま
が好まれて居ります、装飾は前に
の中でも一冊よりも飾りの方
一冊が迎へられて居ますが、そ

影をひそめた 氣障なステッキ
近頃は太目の物が流行
新派の花道式つき方もはやらぬ

新派の花道に出てくる氣障な取つたステッキの取扱ひ方は近頃の人には見られなくなりました、丁度婦人がハンドバッグを手にして歩くやうな心持ちで輕くステッキを持つて歩く

手許の

力を後へ、石づきの方を前へ出してやゝ斜めに、しかもそれは振つて歩くのでもなければついて歩くのでもない、それが此頃の男子方のステッキぶりです、そして昔はよく通人のステッキを手にしたものですが、ステッキを持つ場合が區別されて、通人の途中にはほとんどステッキは手にされません、散歩にのみステッキを手にされるやうになりました、又一頃迎へられた

細目の

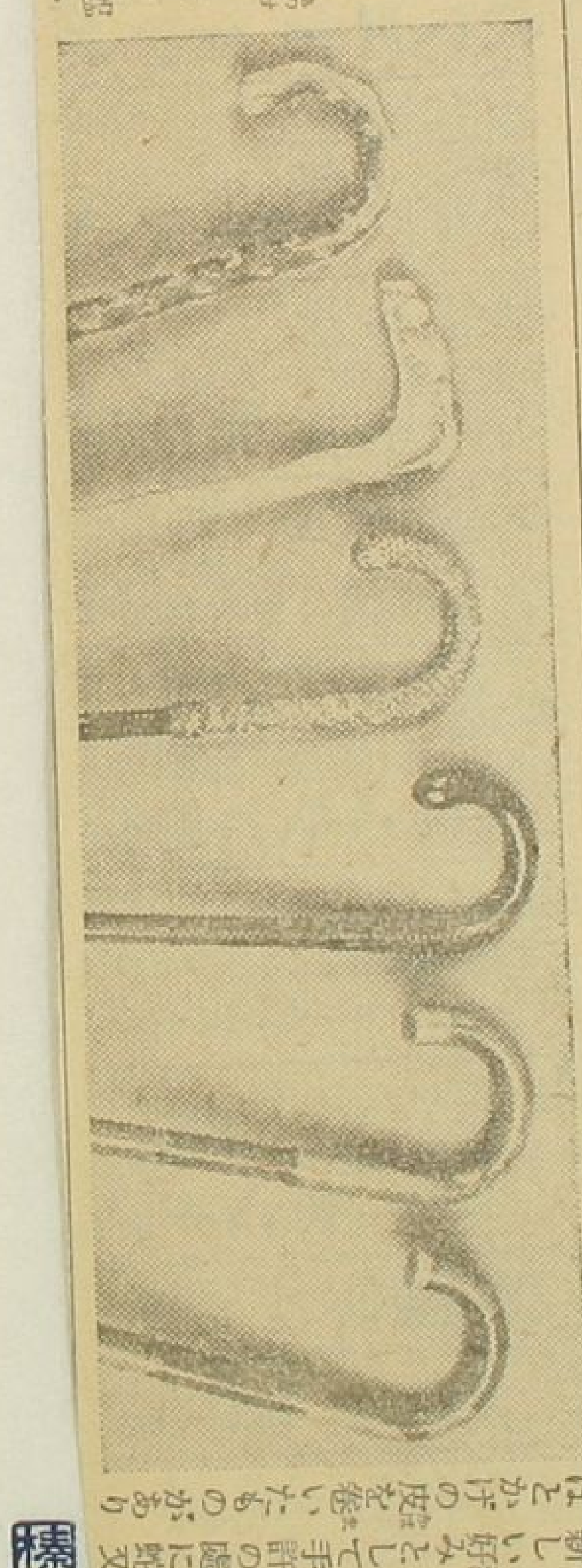
ステッキも此頃では太さを細めて、一時の一ヤール二尺四寸位のものが、手許の長さは主としてアメリカから入つて流行の傾向はりますが、昨今から夏へかけて居んと云つてもアツシユが一番迎へられてゐます、自然木の妙味をそのまゝに生かしたもので、これは此頃は光澤を出して居る

高價な

ものはかなり高いもので、その金具に凝つたものもあり、これよりいゝものになると[illegible]

流行り

ものもありますが、らつてはアッシユが斷然一位を占めて居りません、輸出は細り縮曲のか[illegible]
ますが、これは物好きな人に迎へられて居ります、其他の臨時の服裝へ



新しい好みとして手許の握りに蛇又はとかげの皮を巻いたものがありスネークウッドになります、その

を傳る、亀齢軒余其伝をしらねども、月琴の技に名を得たる人と見たり、此の帳に収めたる山陽が亀齢軒のかたを書したるものなり、天保の二字款あり、月琴の技を学ぶ七絶あり、其後に三云く「亀齢軒主人学月琴技作」外に七絶二首あり、其後に「母君の歌あり、梅隠の短冊なり」中納言資愛か山陽の和歌の上半（短冊なり）を写もしたるを山陽の写五七と称いつまでも歳ごとの和歌あり、山陽が亀齢の為に月琴の絃を作りたる所の書簡なり、巻末に小井の絃曲あり又池芸洲香の詩絃あり、亀齢は山陽周囲の

横原製

人に信ぜられしこと見るべし、池芸洲香は長崎の人にして、其の日本の和歌まで解せし日本通なり、亀齢軒或は主人の人は書簡中に亀齢は大坂に帰住のよし見れば、又江芸閣の消息を問ひたるなるべし

江芸閣の絃来のよしまたてらかいつ
恒ることとそのやうに出しそんはあるとおもひ
ともそなり

当北市簡中に芸閣より月琴の絃を送れりとて
山陽に語りたるなるべし、そんと題し山陽は芸閣に
ハ七絶の方ハ一リてそしと答へてみる。亀齢の
ふさの方ハ一度ハ山陽墨跡の四字

を題す、其の

の吉也

北帳の如く一二旅亭を得、「十便十宜」大、雅と
蕪村の合墨を瑞龍院の附しゝ事ども原
拙の著名の事也「唾鹿法秘録」浦上春
琴の稿本に山陽の雄黄を施し、なる事
雲丸原氏の菊池惟孝に秘蔵せしが
大雲丈に焚けて今の天地間の存せざる
複製なりとす、珍の奇華文蒙
明治十四年十月著行に係る樵木寛則が院
本を漢譯したる也院本の目録原
雪降日く阿古屋琴責、義経千本桜、日
く桂川連理柵、四篇ども原文と譯文と第四

横原製

しあり、事すでに院本を漢譯せるもの伝四篇
海山奇井　菊池三渓著あり、世のもとん武八
先駆なるん歟譯者の余未だ何人なるを知ら
ざる也　四月三日記

○前掲山陽遺墨を再閲す、毎々山陽の才を感ず
るか、月琴に李義山の詩句を題し、未曾有
義山の詩句を見ざりしなる思ひつきも也

誰捉蟾華割玉璧、圓圓新彩帶清
音、四海山河一時入、碧海青天秋夜心

雲鬟霧鬢人無數、月在清輝夜武陵

庭外化光清夜月　子成

小倉北侍に注したる詩の文を示す

李義山嫦娥詩曰雲母屏風燭影深長河漸落曉星沉嫦娥應悔偷靈藥碧海青天夜夜心漸是豊山評云嫦娥之長生之福無夫婦之乖違故余習常時或有其人乎義山託嫦娥以互耳子成為菴歌矣、所目琴徒耳義山今尤人恐未知之故為書其末

弘化二年七月廿三日　山井敬人藤原卿

他ノ月琴を文くの一詩を和す

延喜高紙、翰林朝後、國ノ女形、彩如

樣京製

皇抱為若月、終也夜長、月義左陳、

河花ニ

三十六峰外失影

此詩を附して細香の詠歌有り

都門迎母年間、酒伯興三十年里、偶々湖園庭中秋

とし、ことの秋いかなるもいつまでの月の

浪子の中也の月

母を伴ひて湖園の中秋の月を賞し、時龜齢

七侍、月琴を奏しくらしく其樂の詩と思

ハる、

無歌ならん歟の節の中と思ふ、後冊に

羽生こゝろ

初秋のよひ月)うつる波竜巻ぬく話らひ
月琴を弾かつひの句をうたひもこん
うのとのそまひんん

桂の花おふ琴の高らへ流のうをや
待しんつう蘆月も出けり

竜巻のうたひ乞ひの句を賦のつけ作うう
北帰の修うを沈津香の待を弾す、沖の山陽の義を
受けしことあうと思へ作う

華大如禄昔閑漢未曾識面心仮余有吟二
十四首曾蒙評点極者論詩具視推敲細叔詩中賞賛図境及こう
高丸注 陶懐堂留栗府者 先生頭金玉府後内者山什慰者之不勝抑是

横原製

人物之感

辛丑清明後一日倍宮山青銀蔵献山陽外史
遺墨一冊年不忍釋卒成七絶一首以応
竜巻花月琴笛之命山陽翰墨不易
多得願竜巻其永寶諸

英門沈津香題

短冊一枚を山陽の和歌あり
植し桂の五もとを柳いつまでも
わうとうちかをなつかめてしのを変
山陽賛書かこれを見て感じての短冊もあり其
羽吉れ

山陽の歌を見て感慨をなすを上の

句ハ下の歌のまくれ立てひとりこつ
樫しまの五もと柳いつまもも
あれ立を能こま霞のもとの梅の香
元一座流也、すべて此帖に有まこの金加絶筆下
賛山陽と云す、他日金版の板もあり、ハ博物を能
すといふ
右一詩士海の白雪とこの七字を待を亀齢
の書き其て字共論語に山陽獨特の風味あ
り

唐中元士海贈梅花余亦作詩五
句見口生荊棘今為亀齢
指如懸槌也

北海詩をそい他人と定の七字詩を書き其くもも
詩味有し山陽の大詩ハ○こんなものも沢
を発ル
亀齢先生前ハ紅文字ハ宇一(宇く山流書
詩集に載ハ云)してあるも初れされハ也

琴棋書画
俳芸閑をもき七絵ノ方ハ〇ハ〇
先刻云ハ巻ものの美性を能
墨まりて石拙ハ信く大詩と狂の
淋をれハ出版ハ勉強ハ
月琴黄花をハ
印面ハ何方朱漆をもの

入さを（てら）寺
江芸閣と和泉のるるし寺をそるか
いつ帰ることと云ふ事は
こゝに知らず　　うんぬん
八月五日　　山陽
亀井翁
北帳の首に「天倪」の二字を横書
甲申長夏書
為
亀井翁　　軒主
表

榛原製

とあり、これ或は明琴の後撰
○和田克徳といふ人が昭和二年に出版した切腹哲学
といふ書を得て後刻の研究
を経てゐるので興味のあるこゝ追々紹介をこゝ
産む生てくるものあるが善悪り維新の南初
自殺の禁もその別数の起つた時のことが
ストンのブルー、ブックは出てゐるのを発出し
もある　これ方の如くある
時は次に二年（西紀一八六九）維新後の日本を
見ると方面に推進せしむべきかん乱ての
是今職が廟堂に別かれることがあつた
其結　一妻子六人殉清死　切腹

以下
丁
以
白紙

宮内庁書陵部

天保八年四月若年寄飯田信濃守城主振粗宮内大輔
列業を高田に制せ樂共乗国五十俵俸を
遣定了

抗之則至雷霆之怒柳之則至深淵
之下用之則為虎不用出為鼠
春城七十叟

横原製

京い